

阪大 —地域に生き世界に伸びる— NOW

80th 原点へ
ANNIVERSARY
未来へ
2011
OSAKA UNIVERSITY



OSAKA UNIVERSITY 2010/No.119

8

トピックス

大阪大学

司馬遼太郎記念学術講演会

クローズアップ

大学全体の活性化を目指して

—男女共同参画の推進



2010 8月号

No. 119

目次

トピックス	2
クローズアップ	4
役員室だより	8
ナウススペシャル	24
キャンパスニュース	26
表彰等	44
人事	49
計報	51
インフォメーション	52
海外拠点だより	60
交流協定大学	62
クラブ&サークル	63
トピックス	64



表紙写真：箕面キャンパス中庭大時計と 外国語学部学部章

大阪外国語大学の大阪市内から箕面への移転20周年を記念して、創立記念日の1999年11月11日11時11分11秒に除幕された直径約166cm(縦)×190cm(横)の大時計。外国語学部生は一日に一度はこの時計を見ながら世界とのつながりを意識する。(盤面は陶器、円縁はステンレス)

表紙右下は、統合(2007年10月)を機に新生外国語学部の学部章として定めたもの。ラテン語で"EX ORIENTE LUX ET PAX"(光と平和は東方より)とある。開学以来の精神を引き継ぐ学部モットーであり、学部の使命を謳ったもの。円形に用いられているエンジは学部カラーとなっている。

表紙デザイン：株式会社ココティエ

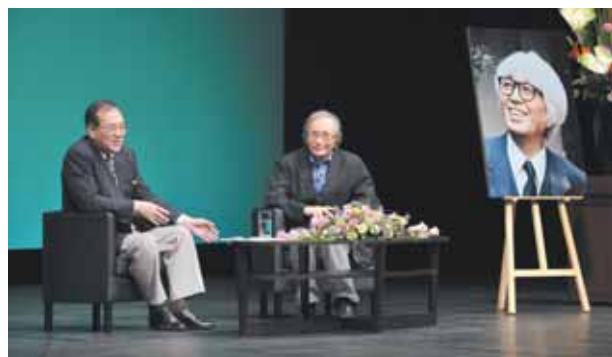
大阪大学 司馬遼太郎記念学術講演会

6月19日(土)、大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会が開催されました。

本講演会は、大阪外国語大学の卒業生である作家の司馬遼太郎氏の業績を偲び、その遺産を継承するため、学生及び一般市民を対象として、比較文明的な視点から日本を論じる記念学術講演会として開催されており、大阪外国語大学が大阪大学と統合したことにより、本講演会については、そのまま大阪大学主催事業(共催 産経新聞社/関西2100委員会)として引き継がれ、名称も「大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会」として本年第13回目の開催を迎えました。

本年は、「近代日本の原風景」をテーマに昨年に引き続きサンケイホールブリーゼ(大阪市北区)を会場として、約900名の方々が来場されました。

冒頭に司馬作品「坂の上の雲」の一節の朗読があった後、鷺田清一総長からの主催者挨拶があり、第1部の講演が始まりました。



対談の様子(写真：産経新聞社提供)

「近代日本の原風景」



山内昌之氏（写真：産経新聞社提供）



天野祐吉氏（写真：産経新聞社提供）

講演では、東京大学教授の山内昌之氏と、コラムニストで松山市立子規記念博物館名誉館長の天野祐吉氏をお招きし、山内昌之氏は「世界史のなかの『坂の上の雲』」と題して講演され、続いて、天野祐吉氏が「現代に生きる子規—写生・表現・広告—」と題して講演されました。

第2部では、対談に先立ち、司馬氏原作のNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」で主人公・秋山真之を演じる俳優・本木雅弘氏からのビデオメッセージが披露され、「『坂の上の雲』には、かくありたいと思う日本人像がちりばめられている。」と原作の魅力などについて語られました。

続いて、「近代日本の原風景」と題して両氏による対談が行われ、明治時代の若者の志や使命感、現代で失われつつある日本人の美徳などについて語られました。天野氏が「日本人は思想ではなく美意識みたいなもので動いていたが、今はその美意識まで崩壊してきている。」と話されると、山内氏が「『坂の上の雲』の時代の日本人に戻って、志や使命感について考えてみるといいのではないか。」と話される場面もあり、来場された参加者は、司馬作品の奥深さに魅了される時間を過ごされていました。

（企画部広報・社学連携事務室）

「大学全体の活性化を目指して ― 男女共同参画の推進」

男女共同参画推進オフィス

はじめに

平成22年4月1日、それまで本学の男女共同参画の担当してきた「女性研究者キャリア・デザインラボ」の後継組織として、男女双方（全大学構成員）を視野に入れた「男女共同参画推進オフィス」（以下「オフィス」と言います。）がオープンしました（「オフィス」の構成等については前号でご紹介しましたので、省略します。）。

ここでは、本学における男女共同参画の基本理念や体制、現状、具体的な取組などについて説明します。

「男女共同参画推進オフィス」の設置までのあゆみ

設 置 日	取 組 内 容
平成17年 7月	男女共同参画に関する検討ワーキング設置
平成18年 4月	多様な人材活用推進委員会の設置
平成19年 9月	「女性研究者キャリア・デザインラボ」開設
平成21年12月	「男女共同参画推進に関する阪大プリンシプル」の制定
平成22年 1月	男女共同参画推進委員会発足
平成22年 4月	多様な人材活用推進本部設置 男女共同参画推進オフィス設置

1 基本理念

本学における男女共同参画は、多様な人材活用の理念の一環として位置付けられて推進してきており、このことが他大学に見られない大きな特徴です。女性をはじめとする多様な

人材がいきいきと働ける場と機会を提供することにより、本学の教育・研究の質を高めることを目指しています。

第二期中期目標・中期計画に向け、大学構成員全員にとってさらに学びやすく働きやすいキャンパスを目指して、平成

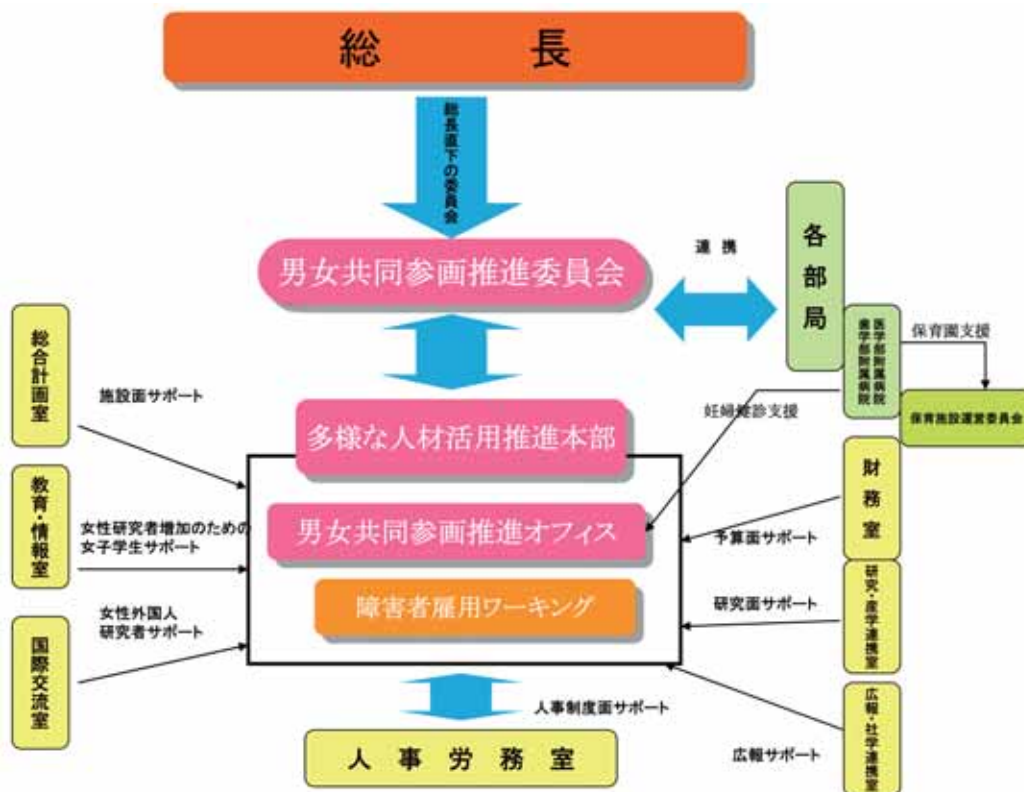


図1 男女共同参画推進体制

21年12月には、鷺田総長が「男女共同参画推進に関する阪大プリンシプル」を宣言しました。その内容は以下の通りです。

1. 女性がいきいきと働けるキャンパスを作り、本学の研究・教育の質を高めます。
2. 総長のリーダーシップのもと構成員全員で取り組みます。
3. ワーク・ライフ・バランスを実現できる体制を作ります。
4. 女性研究者を増やし育てるよう、目標を定め、努力します。



多様な人材活用ロゴマーク

「オフィス」では、男女共同参画を推進することは、女性研究者の支援になるばかりでなく、男性研究者も含め本学全体の教育・研究の質を高め、大学全体の活性化をもたらすことになると考えています。

2 体制の一新強化

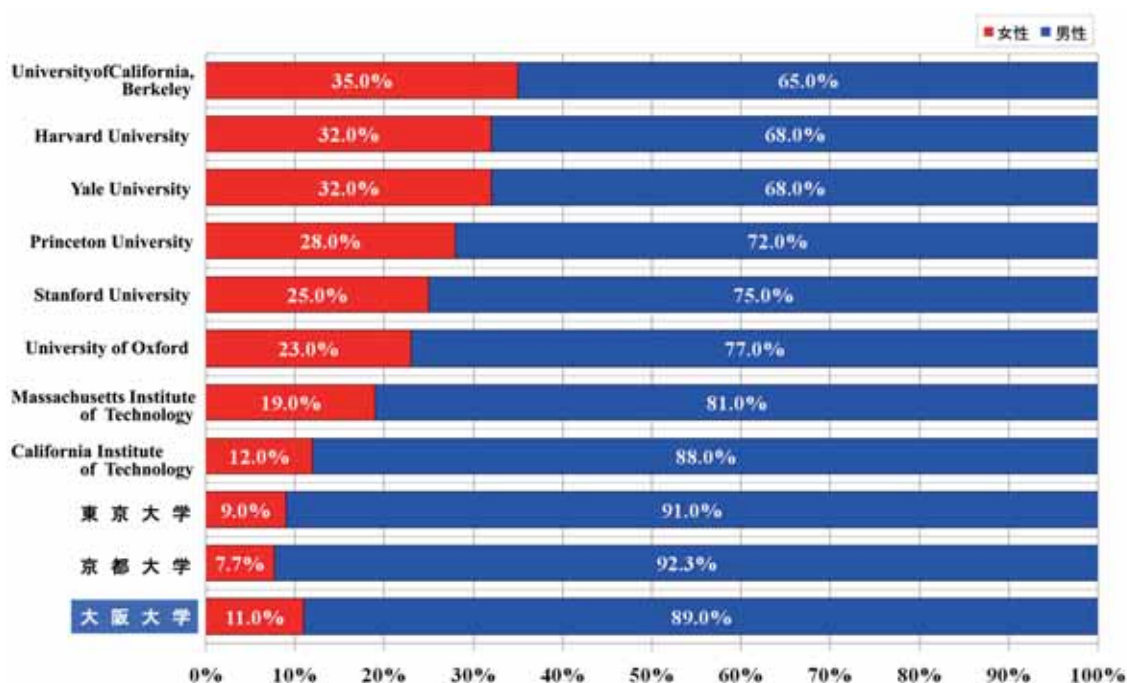
本年、本学の男女共同参画推進体制が一新されました。本年4月にはそれまでの「多様な人材活用推進委員会」の後継組織として「多様な人材推進本部」も発足しました。この組織は、女性や障害者など多様な人材活用を推進する方策を企画したり、啓発や環境整備について審議するところです。「オフィス」はこの本部の要項に基づき設置されています。

これに先立って、今年1月には、総長直属の「男女共同参画推進委員会」が設置されました。この委員会は、総長のリーダーシップにより、本学における男女共同参画推進をトップダウンで積極的に推し進めることを狙いとしています。

これら一連の体制整備によって、男女共同参画をより強力に推進する体制が構築されました。

3 現状

それでは、本学における男女共同参画の現状はどのようなになっているのでしょうか。いくつかのデータをもとに見てみたいと思います。



大阪大学作成資料 出典：2008年「Times Higher Education Supplement (THES)」の世界大学ランキング及び各大学のHP。

図2 世界主要大学における女性教員比率

図3 本学の女性教員比率



職名	教授		准教授		講師		助教		合計	
年度	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成19年	742	34	629	47	146	26	882	125	2399	232
平成20年	831	45	695	86	151	30	906	139	2583	300
平成21年	838	46	731	92	157	31	903	155	2629	324
平成22年	835	50	710	99	172	35	931	159	2648	343

表1 本学の女性教職員数

(1) 女性研究者の比率

まず、本学において、女性研究者の人数と比率は、着実に伸びてきています。(表1、図3) 特にここ数年間の伸びは旧七帝大の中でも際立っており、例えば、平成19年度から21年度の3年間で、本学の理系女性研究者数は44%も増加しました。この結果、平成21年度の女性研究者比率は、旧七帝大の中でもトップクラスの高さとなっています。しかし、大学全体の女性研究者比率(平成21年度末で11.3%)を、ハーバードやオックスフォードなど欧米のトップクラスの大学(20%台～30%台)に比べると、国際的にはまだまだ低い数字です。(図2)

(2) 本学常勤教員アンケート調査

次にご紹介するのは、平成21年に実施した「大阪大学の常勤教員の実態と意識に関するアンケート」です。

この調査は、本学の常勤教員全員を対象に、研究生活、家庭生活、男女共同参画への意識などを内容として実施したのですが、いくつか興味深いデータが得られています。

まず、研究時間と研究業績との関係について、両者には、ほとんど全く相関が見られないことが分かりました。(図4) また、女性研究者は男性研究者より平均して週10時間ほど勤務時間数が少なくなっていますが、研究業績における男女差は見られません。長時間労働が一種の美德とされ、長時間働けないと仕事ができなと思われがちな日本の職場にあって、これらは意外な調査結果ではないでしょうか。

長時間労働は、男性研究者にとってもワーク・ライフ・バランスを崩すものであるだけでなく、勤務時間が長くなるほど、「パワーハラスメント」や「性差による差別」の経験が増加するなど、さまざまな職場環境悪化の原因になっているという結果が出ています。

なお、男女での意識のギャップがあることも明らかになりました。たとえば、女性研究者が少ない理由について、「女性になりたがらないから」とする回答には男女差がかなり有りました。また、女性の方がパワハラ経験率が高く、配偶者との別居率が高いなど、あまり知られていないデータも得られました。

4 「オフィス」の活動

上記のような現状の把握も踏まえて、「オフィス」では次のような活動を行っています。

(1) 研究支援員

研究支援員とは、本学研究者が出産・育児・介護等を理由に研究を断念することなくキャリア形成を継続するために、大学院修了者や在学生を雇用し、研究者の研究を支援するものです。また、本学の特色は、この制度が研究者の「サポート連鎖」を目指すものであることで、次世代の人材育成のために、研究支援員にはキャリア継続や身近なロールモデルとの交流の機会を提供し、メンターによる訓練(OJT)および啓発を行います。

本学では他大学に比べても比較的早く、平成19年度から研究支援員制度を導入しました。本制度は、利用者や研究支援員自身からは、おおむね好評をいただいています。(コラム参照)

【研究支援員利用者の声】

- ・研究上の効果以外に、精神的な余裕が生まれた効果も大きかった。
- ・やる気のある学生が派遣されたので、非常に支援の効果が高かった。
- ・育児中で他の人より長時間働けないという負い目がカバーされた。

【研究支援員の声】

- ・研究者のイメージを持つことができた。
- ・母親と研究者の両立が可能な道があることを知ることができた。
- ・他の研究室で仕事をする中で、より広い範囲のことを学ぶことができた。

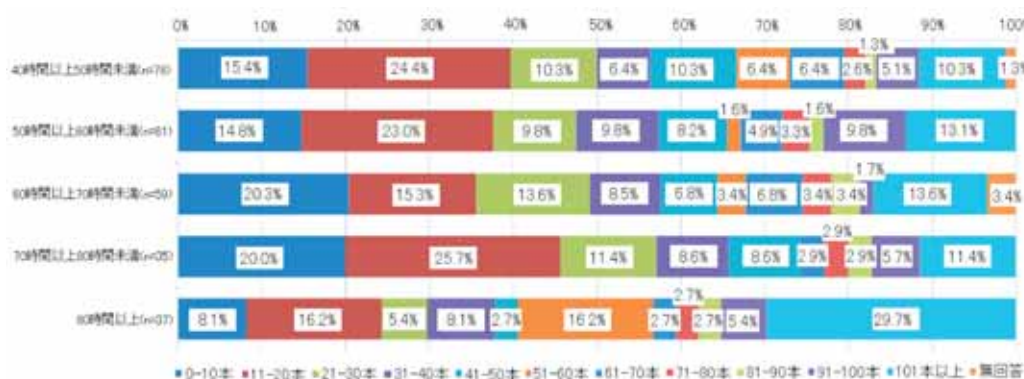
研究支援員に在学生が多いのも本学の特徴で、対象を院修了者などに限定している多くの大学に比べて、多数の方々(常時約20名前後)が本制度を利用しています。(表2)

なお今年度からは、男性研究者、文系の研究者の方々もこの制度をご利用いただけるようになりました。積極的なご利用をお願いいたします。

本年7月後半から、研究支援員の本年度後期分を募集する予定です。詳細は、本学ホームページやKOANに募集記事を今後掲載しますのでご覧ください。O+PUSにも募集案内を掲載する予定です。

URL : <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/diversity>

研究業績(論文数)



※0時間以上40時間未満削除
図4 研究業績(論文数): 1週間あたりの総研究時間

表2 研究支援員利用者数

年 度	19 I	20 I	20 II	21 I	21 II	合計
利用者数	13	19	19	20	23	94

19 I の支援期間は11月1日～3月31日
20 I、21 I の支援期間は4月1日～9月30日
20 II、21 II の支援期間は10月1日～3月31日

(2) シンポジウムやセミナーの開催

「オフィス」では、シンポジウムやセミナーを開催することで、男女共同参画についての学内の意識を高めるよう努めることにしています。

まず本年度の第1回セミナーを9月22日（水）に開催します。今回は、名古屋大学と神戸大学の男女共同参画関係者をお招きして、両大学における女性研究者の人数増加への取組、意識啓発やワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）支援など、取組を進めるに当たっての実際の体験談やご苦労を中心にお話いただく予定です。

また、12月のシンポジウムを計画中です。詳細が決定しましたら、改めてお知らせいたします。



第3回男女共同参画シンポジウム
（平成21年12月7日）

(3) 環境整備について

「オフィス」では、男女共同参画に向けての環境整備にも取り組んでいます。

1. 女性教職員・研究者の休憩室の整備について

各部局の休憩室等設置状況について調査を行ったところ、休憩室が設置されていない、また搾乳ができる環境が整備されていない部局が多く見受けられました。そこで本学の女性教職員・研究者が安心して過ごせる環境を整えるため、休憩室の設置・設備の充実を図ることとし、予算を確保し、各部局に配分しました。

その結果、本部事務機構棟及び13部局において、女子休憩室が整備され、搾乳できるプライバシーの確保のみならず、搾乳した母乳を冷凍保存できる冷凍冷蔵庫や体調不調時に安静にできるベッド、ソファも完備されました。

2. 搾乳器のレンタルについて

「オフィス」では、乳児のお子さんを育てている女性教職員・研究者へのサポートとして、電動搾乳器のレンタルを始めま

した。電動搾乳器を個人で購入すると通常30万程度かかり、レンタルをしても1ヶ月19,000円の負担が生じます。このような負担を軽減できないかと考え、平成22年5月から「オフィス」に2台設置しました。そのうち1台については既にレンタルを開始しています。このような取組は病院等で行われているケースがあるようですが、大学で実施しているのは本学が初めてです。利用を希望される方はオフィスまでお問い合わせください。

また、本年6月に本学は次世代育成対策推進法に基づく「基準適合一般事業主（くるみん）」へ認定されました。（ポスター参照）詳細については、役員室だより「人事労務室」を参照してください。

おわりに

これから「オフィス」では、大学内外の皆様方と積極的に連携して、**本学全体の発展のために**男女共同参画の取組を進めていきたいと考えております。本学における男女共同参画の推進について、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



大阪大学男女共同参画推進オフィス
場所 吹田地区本部福利厚生施設
レストラン「匠」の2階
電話 06-6879-4405（内線9573）
e-mail:geoffice@osaka-u.ac.jp



大阪大学に在籍する女性教職員の皆様へお知らせ

電動さく乳器のレンタルを始めました。

母乳は赤ちゃんにとって理想の栄養源です。母乳は生後6ヶ月の間に赤ちゃんが必要とする母乳の量を産むことが大切です。母乳を搾乳することで、母乳の量を確保し、赤ちゃんの健康な成長を助けます。

男女共同参画推進オフィスでは、母乳で育てたいお母さんのために、電動さく乳器のレンタルを開始しました。

Medela社製 Syma Babyをレンタル致します。
電動さく乳器貸出申請書に記入の上、お申し込みください。



お申し込み・お問い合わせは
男女共同参画推進オフィス
TEL 06-6879-4405
内線 9573
総機 9573

役員室だより

2010.8 Vol.37

大学の動き

平成23年度概算要求事項

平成23年度新規概算要求については、人間科学部入学定員の増を始めとした学部・大学院組織等の整備、教育研究活動のさらなる充実・発展のための特別経費等を、6月17日に文部科学省に提出いたしました。要求事項の一覧は8～10ページに掲載しています。

なお、文部科学省におきまして、平成19年度以前に採択された特別教育研究経費のうち、長期に経過観察が必要な取組について、一般経費への組替えが検討されるにあたり、本学から1件の希望調書を併

せて提出いたしました。

また、特別経費のうち「全国共同利用・共同実施分」については、平成22年度に引き続き、文部科学省が認定する共同利用・共同研究拠点等における各種プロジェクト等を支援する経費を、「基盤的設備等整備分」については、各法人が策定する「設備マスタープラン」に基づき、基盤的設備の計画的整備等を支援する経費として要求しています。

平成23年度概算要求事項（大阪大学→文部科学省）

区 分	事 項 名	備 考
【学部・大学院組織等整備】		
歯 学 部	学部入学定員の減(12名減)	
人 間 科 学 部	学部入学定員の増(7名増)	
医 学 系 研 究 科 (保 健 学)	博士前期課程入学定員の増(19名増)	
情 報 科 学 研 究 科	博士前期・後期課程専攻の入学定員の変更(前期2名増、後期増減なし)	
医 学 系 研 究 科 (医 学 科)	博士課程専攻の改組(5専攻を1専攻へ、定員増減なし)	
医 学 部 (医 学 科)	編入学時期の変更(H22)に係る3年次編入学生入学定員の減	平成22年度概算要求にて3年次→2年次へ 平成23年度から3年次編入学生の受入廃止

【特別経費】（事項名称における太斜字は継続分を示す。）

○プロジェクト分

①国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実

グローバルコラボレーションセンター	国際協力・共生社会のための実践的教育改革事業—グローバルコラボレーションセンター—(9-5)	
サイバーメディアセンター	大学教育のグローバル化に対応したFD支援事業(4-3)	
基 礎 工 学 研 究 科	量子機能融合による未来型材料創出事業—スピントロニクス、オプトロニクス、モレクトロニクス、クオントロニクスの融合による未来型機能材料創出事業—(5-3)	
産 業 科 学 研 究 所	先端テクノサイエンス融合領域研究者育成のためのニューマイスター構想— 附置研究所を拠点とする研究密着型グローバル連携教育—(5-1)	新規
サステイナビリティ・デザイン・センター	低炭素社会実現のための「環境イノベーションデザイン」教育研究拠点形成事業(4-1)	新規
歯学研究科・歯学部附属病院	「口の難病」から挑むライフ・イノベーション(6-1)	新規
生 命 機 能 研 究 科	計算・定量生命科学推進のための基盤・拠点整備—生命をシステム科学する—(5-1)	新規
②高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実		
コミュニケーションデザイン・センター	コミュニケーションデザイン教育事業の推進—コミュニケーションデザイン・センター—(11-7)	
連 合 小 児 発 達 学 研 究 科	「子どものこころの発達研究センター」による教育研究事業(10-6)	事業期間延長(6→10)・増額要求 一般経費組替申請
世 界 言 語 研 究 セ ン タ ー	社会人を対象とした学士レベルの外国語教育プログラムの提供(3-3)	
学 際 融 合 教 育 研 究 セ ン タ ー	学際融合教育事業の推進—学際融合教育研究センターの構築—(5-3)	
ナノサイエンスデザイン教育研究センター	ナノサイエンス総合デザイン力育成事業の推進—多重ネットワーク型産学・国際連携人材育成—(4-3)	

区 分	事 項 名	備 考
医 学 部 附 属 病 院	医療安全能力向上のための効果的教育・トレーニングプログラムの開発－医療安全学の構築と人材育成－(5-3)	
知 的 財 産 セ ン タ ー	総合的知的財産教育事業の推進－知財センター (IPrism) の設置－(6-2)	
薬 学 研 究 科	先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発(6-2)	
情 報 科 学 研 究 科 金 融・保 険 教 育 研 究 セ ン タ ー	ソフトウェアノバージョン先導のための研究教育プログラムの開発(4-1)	新規
③幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実		
サイバーメディアセンター	高度外国語教育全国配信システムの構築(5-5)	
④大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実		
世 界 言 語 研 究 セ ン タ ー	民族紛争の背景に関する地政学的研究－中央アジア、アフリカ、パレスチナ、旧ユーゴの言語・文化の研究－(5-5)	
科学教育機器リノベーションセンター	革新的研究教育基盤機器開発整備事業(5-4)	
産 業 科 学 研 究 所	附属研究所間アライアンスによるナノとマクロをつなぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト(6-2)	
接 合 科 学 研 究 所	特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト(6-2)	
蛋 白 質 研 究 所	生命分子素子から生命システムの全体像を解き明かす多次元国際研究(6-2)	
レーザーエネルギー学研究センター	レーザー相対論核科学の開拓(6-2)	
核 物 理 研 究 セ ン タ ー	サブアトム科学研究推進事業(4-2)	
超 高 圧 電 子 顕 微 鏡 セ ン タ ー	超高圧電子顕微鏡連携ステーション(第II期)(6-2)	
医学系研究科(保健学専攻)・社会経済研究所・薬学研究科・人間科学研究科・歯学研究科・基礎工学研究科	高齢双生児レジストリーに基づく双生児研究基盤の構築 一心豊かで健やかな超長寿社会を目指して－(4-1)	新規
⑤産学連携機能の充実		
臨床医工学融合研究教育センター	医・工・情報連携によるハイブリッド医工学産学連携拠点整備事業－医工情報連携センター構築にむけて－(4-1)	新規
薬 学 研 究 科・医 学 系 研 究 科	くすりの町大阪 阪大・道修町プロジェクト－産学連携創薬教育研究プログラム－(5-1)	新規
○全国共同利用・共同実施分		
産 業 科 学 研 究 所	物質・デバイス領域共同研究拠点によるネットワーク型共同研究事業(6-2)	
社 会 経 済 研 究 所	行動経済学公募共同研究プロジェクト(6-2)	
微 生 物 病 研 究 所	微生物病共同研究拠点事業(6-2)	
接 合 科 学 研 究 所	接合科学共同利用・共同研究拠点事業(6-2)	
蛋 白 質 研 究 所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点事業(6-2)	
核 物 理 研 究 セ ン タ ー	サブアトム科学研究拠点事業(6-2)	
レーザーエネルギー学研究センター	超高強度レーザーが拓く高エネルギー密度科学の戦略的研究拠点事業(6-2)	
○基盤的設備等整備		
理 学 研 究 科	超高周波電子スピン共鳴(ESR)年代測定装置	
基 礎 工 学 研 究 科	レプリカ法走査型電子顕微鏡	
極 限 量 子 科 学 研 究 セ ン タ ー	TFE電子線照射装置	
極 限 量 子 科 学 研 究 セ ン タ ー	超高圧極低温下物性測定装置	
核 物 理 研 究 セ ン タ ー	サイクロトロンカスケード装置	
レーザーエネルギー学研究センター	レーザー駆動高強度テラヘルツ波分析装置	
レーザーエネルギー学研究センター	激光エクサレーザー装置(3-1)	
レーザーエネルギー学研究センター	トリチウムハンドリング装置	
レーザーエネルギー学研究センター	核融合クライオターゲット装置	
微 生 物 病 研 究 所	第三世代シーケンサー1分子シーケンシングシステム	
産 業 科 学 研 究 所	超精密微細高精度ナノ加工機	
蛋 白 質 研 究 所	無染色細胞・組織三次元イメージング装置	
蛋 白 質 研 究 所	高精度X線結晶解析システム	
蛋 白 質 研 究 所	生体超分子構造解析装置	
接 合 科 学 研 究 所	自動X線マイクロアナライザシステム	
医 学 部 附 属 病 院	患者給食用冷凍冷蔵設備	
歯 学 部 附 属 病 院	デンタルチェアユニット(77台)	
【病院特別医療機械設備(長期借入金対象)】		
医 学 部 附 属 病 院	動的筋力評価訓練システム	
医 学 部 附 属 病 院	心機能解析システム	

役員室だより

区 分	事 項 名	備 考
【施設整備費】		
①国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実		
医 学 系 研 究 科（医 学 科）	(医)動物実験施設	
生 命 機 能 研 究 科	(生命)分子細胞イメージング施設	
微 生 物 病 研 究 所	(微研)微研南館改修	
産 業 科 学 研 究 所	(産研)グリーンサイエンス総合研究棟	
核 物 理 研 究 セ ン タ ー	(吹田)核物理研AVFサイクロترون棟改修	
サイバーメディアセンター	(吹田)サイバーメディアセンター(ITコア)改修	
②国際化の推進機能の充実		
人 間 科 学 研 究 科	(人科)大阪大学国際プラザ	
生 物 工 学 国 際 交 流 セ ン タ ー	(吹田)生物系総合研究棟(生物工学)	
本 部 事 務 機 構	(吹田)大阪大学戦略拠点整備	
総 合 計 画 室	(豊中)インターナショナル・イノベーション棟(Ⅰ期)	
③高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実		
医 学 系 研 究 科（医 学 科）	(医)グローバル医学教育棟	
医 学 系 研 究 科（保 健 学 科）	(医保)健康長寿総合研究棟	
④大学等の特性を生かした多様な教育研究機能の充実		
学 生 部	(豊中)学生交流棟施設整備事業(PFI事業13-7)	PFI事業
工 学 研 究 科	(吹田)研究棟改修(工学部)施設整備等事業(PFI事業13-6)	PFI事業
人 間 科 学 研 究 科	(吹田)人間科学本館改修	
外 国 語 学 部	(箕面)研究講義棟A棟改修(2-2)	
理 学 研 究 科	(理)理学E棟改修	
歯 学 研 究 科	(歯)歯学部本館改修	
工 学 研 究 科	(工)工学S4棟改修	
工 学 研 究 科	(工)工学M1棟等改修	
情 報 科 学 研 究 科	(吹田)情報系総合研究棟	
⑤学生支援・地域貢献など大学等の戦略を踏まえ必要な機能の充実		
総 合 学 術 博 物 館	(豊中)総合学術博物館	
教 育 ・ 情 報 室	(豊中)豊中福利会館改修	
⑥附属病院機能の充実		
医 学 部 附 属 病 院	(医病)基幹・環境整備(5-4)	・熱源設備改修(5-4)
		・空調設備改修(5-4)
		・搬送設備改修(5-4)
		・防災設備改修(2-2)
		・外壁改修(4-4)
⑦「安全・安心」及び「環境配慮」の推進		
総 合 計 画 室	(豊中)基幹・環境整備	2回線受電
総 合 計 画 室	(吹田)基幹・環境整備	屋外ガス、屋外給水管、市水供給設備(受水槽)他、特高変電所増設
総 合 計 画 室	(箕面)基幹・環境整備(道路等)	
総 合 計 画 室	(箕面)基幹・環境整備(揚水設備等改修)	受水槽高架水槽の改修、ポンプ設備揚水管の改修、空調設備の改修(A棟・管理棟・図書館)

各室の検討状況

総合計画室

学内措置による教育研究組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による教育研究組織の整備として、6月又は7月の役員会で次の事項が承認されました。

- ・接合科学研究所附属スマートプロセス研究センターの時限（平成25年3月31日まで）の撤廃（平成22年7月1日）
- ・グローバルコラボレーションセンター海外体験型教育企画オフィスの設置（平成22年8月1日）
- ・サステイナビリティ・デザイン・センターの改組【「サステイナビリティ・デザイン・センター」→「環境イノベーションデザインセンター」】（平成22年10月1日）※平成27年3月31日まで

「国立大学法人後の現状と課題について（中間まとめ）」

文部科学省は第1期中期目標期間の検証を実施し、このほど中間まとめが公表されました。

ホームページアドレス http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/07/1295787.htm

中間まとめでは、①教育研究力の強化、②ガバナンスの強化、③財務基盤の強化のための改善を図るよう各法人に求められています。

省エネルギー活動の推進

大阪大学は、エネルギー使用量が増加傾向にあり、これに伴い温室効果ガスの排出量も増加しています。本学の温室効果ガス排出量は、吹田市では最大、大阪府の大学の中でも有数の排出事業者となっています。

このことから、温室効果ガスの排出削減に向けて、従前の省エネ意識向上による無駄の排除に加え、より一層の省エネ対策として機器・設備の効率向上を目的とした省エネ機器への転換に向けた新たな取り組みが必要な時期にきています。

施設マネジメント委員会においては、省エネルギー活動の推進として省エネチェックシート・ポスター等の作成、配布による省エネ意識の啓発に努めるとともに、省エネルギー機器の整備状況調査と転換計画および各部局のエネルギー使用状況の把握と分析による省エネルギー方策の検討を進めています。また、本学では省エネ活動推進のため、毎年6月に各部局の省エネルギー担当者に出席していただき省エネ推進会議を開催しています。今年で5回目とな



平成22年度省エネ推進会議（6月21日コンベンションセンター研修室にて）



りました省エネ推進会議は6月21日に吹田キャンパスのコンベンションセンターにおいて吹田、豊中及び箕面の3地区の省エネルギー担当者が一堂に会して開催されました。

会議では本学のエネルギー使用状況や各部局の省エネルギーへの取り組み活動の報告及び本学の省エネルギー対策の実情と課題の説明、並びに今年度改正となった省エネ法の概要説明など、今後の省エネ活動への情報交換を行い、さらなる省エネルギーに向けての新しい展開が必要であることを確認しました。

教育・情報室

教育研究活動の状況に係る情報の公表について

6月15日に、「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」が公布され、平成23年4月1日から施行されることになりました。「大学等が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から、公表すべき情

報を法令上明確にし、教育情報の一層の公表を促進すること」が改正の趣旨であるとされています。

これにより公表が義務化される情報は以下の通りです。

1. 大学の教育研究上の目的
2. 教育研究上の基本組織
3. 教員組織、教員の数、各教員が有する学位及び業績
4. 入学者受入方針、入学者数、収容定員、在学生数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数、進学・就職等の状況
5. 授業科目、授業方法、授業内容、授業計画
6. 学修成果の評価及び卒業（修了）認定の基準
7. 校地、校舎、施設、設備等の教育研究環境
8. 授業料、入学科等
9. 修学、進路選択、心身の健康等に係る支援

さらに「努力義務」として、「教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」の積極的公表を定め、学位を与える課程（プログラム）

が「どのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのか」を明確にすることが求められています。

インターナショナル・カレッジの設置

インターナショナル・カレッジが8月1日付で設置されました。インターナショナル・カレッジは、グローバル30プログラムにより実施される2つの学部コース（理系の「化学・生物学複合メジャーコース」と文系の「人間科学コース」）の円滑な運営を、学生の所属学部、大学教育実践センター、国際教育交

流センター、学生部などとの密接な連携のもとに行い、これにより大阪大学の教育の国際化を推進することを目的としています。

インターナショナル・カレッジの体制は以下の通りです。

カレッジ長 小泉潤二（教育担当理事・副学長）
副カレッジ長 深瀬浩一（理学研究科教授 理系コース責任者）
副カレッジ長 平沢安政（人間科学研究科教授 文系コース責任者）
副カレッジ長（公募中 コーディネーション等を担当）
その他、グローバル30プログラムによる特任教員、関係部局からの兼任教員

理系コースは定員20名で本年秋に開始し、文系コースは定員10名で2011年秋に開始します。グロー

バル30プログラムを成功させるために全学の協力が必要です。よろしくお願いします。

学部・大学院における全学共通教育（教養教育）の実施体制に関わる意見交換会の開催

本誌6月号でお知らせしたとおり、「学部・大学院における全学共通教育（教養教育）の実施体制に関わる意見交換会」が、7月5日(月)に大阪大学銀杏会館で開催されました。この意見交換会には、北海道大学、東北大学、名古屋大学、京都大学及び九州大学から、教育担当の理事・副学長等をお招きし、それぞれの大学の教育の現状や改革、課題などについてご報告いただきました。本学からは、理事・副学長、大学教育実践センター長、各部局長、教育・情報室員、教務委員長等、約60名の教職員が参加し、活発な情報交換や質疑応答が行われました。とくに、各大学の英語教育についての新しい取組、大学院を含む共通教育や教養教育の推進、全学教育の体制を強化するための組織整備、入試の改革などについて意見や情報を交換する貴重な機会となりました。こうした

議論をふまえ、本学も教育基盤整備本部や教育・情報室を中心に教育改革を進めていくことになります。

なお、この意見交換会の詳細については、小林傳司室員が本誌43ページで報告しています。



外国語教育に関する調査の実施

大阪大学は、外国語学部を持つ全国唯一の国立総合大学として、独自の外国語教育を実現させようとしています。そのためには、外国語教育関係の部局ばかりでなく、全学の連携と協力が必要です。そこで教育基盤整備本部は、「大阪大学における外国語教育に関するアンケート調査」を7月に実施しました。これは、新しい言語教育プログラムの構築に向けて、大阪大学の各学部・研究科における外国語教育への

ニーズ、要望、あるいは考え方を把握するために行われたものです。現在、この調査によるデータを整理・分析しています。教員やカリキュラム上の制約、また全学としての調整などのため、すぐには対応できない部分があることも予想されますが、今回の調査結果が新しい外国語教育に可能な限り反映されるよう検討を進める予定です。

全学FD（ファカルティー・ディベロップメント）研修の実施

本誌の6月号で全学FD研修を実施することについてお知らせしましたが、詳細が別表のとおり決定しました。

組織的なFDにより授業の内容及び方法の改善を図ることは、大学設置基準及び大学院設置基準により義務付けられています。このような法令は別にしても、教育や人材育成は大学が果たすべき役割として一層重視され、大阪大学の全教員が日常的・継続的に教育能力を発展させるよう自ら努めることが求められています。全学で年に1度行うFD研修は、そうした能力開発の第一歩に過ぎませんが、可能な限り多くの教員にご参加いただかなければなりません。昨年までは、同じ内容の研修が重複することを避けるため、最近のFD研修に参加した教員の再受講は求めませんでしたが、本年は特任教員を含めすべての教員に研修への参加を呼びかけています。研修プ

ログラムを短時間に集中するとともに、より体系的で充実した内容を目指しています。午後の前半では、教育担当理事・副学長による大学教育の最近の動向についての説明と、寺崎昌男先生（東京大学名誉教授）と潮木守一先生（名古屋大学名誉教授）による、大学や高等教育の理念についての講演が行われます。

午後の後半では、(A)グローバル30プログラムの進展などにもなう「教育の国際化」、(B)共通教育賞受賞者による「大阪大学におけるすぐれた授業実践」、及び、(C)フィールドワークやインターンシップ、社会の中での教育活動など「対話・体験を活用した学び」という3つのテーマを選択可能なかたちで設定し、それぞれについて学内の専門教員による研修を実施します。

豊中と吹田の両日ともに出席することもできます。教員各位の積極的な参加をお願いします。

平成22年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）研修日程表

豊中地区 平成22年9月 8日（水）文系総合研究棟

13:00～13:30 (30)	13:30～13:50 (20)	13:50～15:20 (90)	15:20～15:30 (10)	15:30～17:00 (90)
受付・ 資料配付	開会式 挨拶	講話	休憩・移動	研修A《教育の国際化》 「英語による授業実践への誘い」 講師：工学研究科 教授 伊東 忍
	小泉理事	「大学改革とFD・SD」 —大学のあるべき姿をつくるカー—		研修B《大阪大学におけるすぐれた授業実践》
				共通教育賞受賞者 「英語学習意欲を持続させる ための授業展開 —大学生の知的好奇心を 刺激する取り組み—」 講師：サイバーメディアセンター 准教授 竹蓋 順子
		講師		研修C《対話・体験を活用した学び》
		東京大学名誉教授 立教学院本部調査役 寺崎昌男氏		「研究者に必要とされるアウトリーチ活動 —中之島ラボカフェでの事例紹介—」 講師：コミュニケーションデザイン・センター 特任准教授 八木 絵香 特任准教授 木ノ下 智恵子
司会進行： 研修A：工藤室員 研修B：竹村室員 研修C：小林室員 研修D：工藤室員		研修A～Cの内1つを選択		

吹田地区 平成22年9月17日（金）コンベンションセンター

13:00～13:30 (30)	13:30～13:50 (20)	13:50～15:20 (90)	15:20～15:30 (10)	15:30～17:00 (90)
受付・ 資料配付	開会式 挨拶	講話	休憩・移動	研修A《教育の国際化》 「留学生に支援的な学習 環境と人間関係づくり」 講師：国際教育交流センター 教授 有川友子
	小泉理事	「体験の場としての大学」 —日独学長会議での経験から—		研修B《大阪大学におけるすぐれた授業実践》
				共通教育賞特別賞受賞者 「魅力的な授業づくり のポイント」 講師：言語文化研究科 教授 日野 信行
		講師		研修C《対話・体験を活用した学び》
		名古屋大学名誉教授 桜美林大学名誉教授 潮木守一氏		「フィールドワークを活用 した教育プログラム」 講師：人間科学研究科 教授 志水宏吉
講 話：三原室員 研修A：菊野室員 研修B：三原室員 研修C：藤田室員 司会進行：			研修A～Cの内1つを選択	

※スケジュールは、都合により変更する場合があります。

大阪大学特別講義

大阪大学特別講義を下記の通り実施します。

日 時：平成22年10月22日（金） 17:00～18:30
会 場：吹田キャンパス コンベンションセンター MO ホール
講 師：建築家 東京大学特別栄誉教授 安藤忠雄氏
タイトル：夢に向かって走り続ける

昨年度より開始した「特別講義」は、学部・大学院や学年を問わず、全学のどのような分野の学生も受講すべき講義を、学外のさまざまな分野のリーダーにお願いしているものです。多くの学部生・大学院生の参加を望みます。

附属図書館副館長の交代

6月24日付で、総合図書館担当の副館長が竹中浩教授（法学研究科）から阿部武司教授（経済学研究科）に交代しました。これにより附属図書館の運営は以下のような体制になります。

館長	小泉潤二（理事・副学長）
副館長	総合図書館担当 阿部武司（経済学研究科教授）
副館長	生命科学図書館担当 仲野 徹（医学系研究科教授）
副館長	理工学図書館担当 平尾俊一（工学研究科教授）
副館長	外国学図書館担当 仁田義雄（言語文化研究科教授）

附属図書館の評価の実施

本年10月に、附属図書館のサービス向上のためアンケート調査を実施します。これはLibQUAL+®（ライプカル）という、米国研究図書館協会が開発した測定調査ツールにより、大阪大学附属図書館を評価するものです。ライプカルによる評価は一昨年も実施しましたが、今後も隔年で継続して実施すること

により、大阪大学の学術情報基盤としての図書館をより優れたものとしていく計画です。本調査に対する教員と学生のご協力をお願いします。

詳細はインフォメーション（58ページ）をご覧ください。

研究・産学連携室

科学研究費補助金獲得支援方策（相談員制度、チャレンジ支援プログラム）の実施

科学研究費補助金は、本学において学術研究を推進する上で重要な研究資金であるとの認識から、応募支援の一環として相談員制度とチャレンジ支援プログラムを今年度も実施いたします。みなさま是非ご活用下さい。

(1) 相談員制度

科学研究費補助金審査委員や（独）日本学術振興会学術システム研究センター研究員等の経験者を中心とした約90名の相談員が、全学の研究者を対象に、研究計画調書の作成や審査のポイント等の相談を受けし、応募支援にあたります。

(2) チャレンジ支援プログラム

今年度が最終年度の「基盤研究（C）」又は「若手研究（B）」の交付を受けている中堅・若手研究者の方々が対象です。平成23年度科学研究費補助金の応募にあたり、「基盤研究（B）」又は「若手研究（A）」と「挑戦的萌芽研究」の2課題以上を申請し、より大型の研究種目にチャレンジした結果、惜しくもそのいずれも不採択となった場合には、平成23年度に研究費（80万円程度）を支援いたします。

〔担当：研究推進部 研究推進課 学術研究推進係（内線3144）〕

学内プロジェクト「飛翔30」若手プログラムについて

本学は、世界をリードする研究大学として、その担い手となるトップレベルの研究者を育成していく必要があります。

そのため、本学の次世代の担い手となる若手研究者（満37歳以下）を応募対象に、大型の競争的資金の獲得経験者、競争的資金審査経験者等を本件の審査員としてご協力いただき、研究・産学連携室にお

いて、特に優秀な若手研究者を6分野（人文・社会科学系、数学・物理系、化学・材料系、工学・情報系、医学系、生物科学系）から各5名程度で合計30名を選出し、大阪大学飛翔研究フェローとして研究費を支援することといたしました。

本件は、8月下旬までに「大阪大学飛翔研究フェロー」を決定する予定です。

学内プロジェクト「最先端ときめき研究推進事業」について

最先端ときめき研究推進事業は、2010年6月号の阪大NOWにおいて、本制度の支援目的及び学内公募についてお知らせしました。

公募の結果、研究代表者からグループ研究として、52件の申請書の提出があり、書類審査及びヒアリングの結果、研究・産学連携室（平成22年6月23日開催）において、下記のとおり採択プログラム4件

を決定しました。

なお、本件は、本学の次代の担い手としてのプロジェクトリーダーになり得る優秀な若手研究者として『大阪大学最先端ときめき研究推進事業「ときめき研究アワード」』を採択プログラムの各リーダーに授与し、さらに学内の広報紙「阪大ニューズレター」に掲載し、顕彰することとしています。

「最先端ときめき研究推進事業」採択者一覧

No.	所属	職名	氏名	研究課題
1	人間科学研究科	教授	檜 垣 立 哉	バイオサイエンスの時代における人間の未来
2	蛋白質研究所	教授	三 木 裕 明	マグネシウムバイオロジーの開拓によるライフ・イノベーション
3	理学研究科	助教	本 多 史 憲	純良単結晶と圧力技術でつくりだす重い電子と超伝導
4	微生物病研究所	助教	小根山 千 歳	がん細胞正常化－細胞内シグナルのリチューニング－

平成22年度科学研究費補助金の採択状況（速報値）

本年度における科学研究費補助金の採択件数・配分額は、全国3位となっています。

なお、上位7大学については以下のとおりです。

（金額単位：千円）

機関名	採択件数	配分額	間接経費	合計
東京大学	3,098件	18,628,253	5,184,376	23,812,629
京都大学	2,467件	10,631,544	2,826,232	13,457,776
大阪大学	2,158件	8,567,090	2,298,177	10,865,267
東北大学	2,021件	8,072,733	2,221,780	10,294,513
九州大学	1,520件	4,855,310	1,347,483	6,202,793
北海道大学	1,441件	4,643,088	1,250,126	5,893,214
名古屋大学	1,384件	4,932,190	1,286,307	6,218,497

※平成22年度（新規採択＋継続分）における採択件数・配分額

評価室

第1期中期目標期間に関する評価（確定評価）報告書を提出

平成22年6月末に、第1期中期目標期間評価（確定評価）に係る以下の報告書を提出しました。

業務の実績の評価

『平成21年度』及び「第1期中期目標期間（平成16～21年度）」に係る業務の実績の報告書を6月末に文部科学省国立大学法人評価委員会に提出しました。また、8月23日(月)には同委員会評価チームによるヒアリングが実施されました。

今後、平成21年度の評価（年度評価）については平成22年9月～10月頃に結果が公表予定となっており、また、平成16～21年度の6年間の評価（中期目標期間評価）については以下の「教育研究の状

況の評価」と併せて「確定評価」として、平成23年3～4月頃に結果が公表される予定です。

同報告書については、ホームページで公表しています。

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/files_hyouka/gyoumu-jisseki-h21.pdf

なお、同報告書における業務運営等に関する大学の自己評定は、次のとおりです。

項 目	計画数	平成21年度				中期目標期間			
		進捗状況(自己評定)				進捗状況(自己評定)			
		IV	III	II	I	IV	III	II	I
I (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標	48	1	47	0	0	3	45	0	0
1 運営体制の改善に関する目標 No.164)～178)	15	1	14	0	0	1	14	0	0
2 教育研究組織の見直しに関する目標 No.179)～184)	6	0	6	0	0	1	5	0	0
3 人事の適正化に関する目標 No.185)～204) (※1)	21	0	21	0	0	1	20	0	0
4 事務等の効率化・合理化に関する目標 No.205)～210)	6	0	6	0	0	0	6	0	0
I (2) 財務内容の改善	16	0	16	0	0	1	15	0	0
1 外部資金その他の自己収入の増加に関する目標 No.211)～219)	9	0	9	0	0	0	9	0	0
2 経費の抑制に関する目標 No.220)～223)	4	0	4	0	0	1	3	0	0
3 資金の運用管理の改善に関する目標 No.224)～226)	3	0	3	0	0	0	3	0	0
I (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	12	2	10	0	0	1	11	0	0
1 評価の充実に関する目標 No.227)～234)	8	0	8	0	0	0	8	0	0
2 情報公開等の推進に関する目標 No.235)～238)	4	2	2	0	0	1	3	0	0
I (4) その他業務運営に関する重要目標	31	1	30	0	0	0	31	0	0
1 施設設備の整備等に関する目標 No.239)～258) (※2)	19	1	18	0	0	0	19	0	0
2 安全・衛生管理に関する目標 No.259)～270)	12	0	12	0	0	0	12	0	0
II 3- (2) 附属病院に関する目標	28					5	23	0	0
合 計	135	4	103	0	0	10	125	0	0
【年度】	【中期目標期間（平成16～21事業年度）】								
IV 年度計画を上回って実施している	IV 中期計画を上回って実施している								
III 年度計画を順調に実施している	III 中期計画を順調に実施している								
II 年度計画を十分に実施できていない	II 中期計画を十分に実施できていない								
I 年度計画を実施していない	I 中期計画を実施していない								

※1：計画203は、校番を付して評価している。

※2：計画248、249は、一本化して評価している。

教育研究の状況の評価

『教育研究の状況の評価に関する報告書』として、『中期目標の達成状況報告書』、『現況調査表』、『研究業績説明書』を、それぞれ6月末に（独）大学評価・学位授与機構へ提出しました。

同報告書については、学内専用ポータルに掲載しています。

なお、「教育研究の状況の評価」は、（独）大学評価・学位授与機構が文部科学省（国立大学法人評価委員会）からの要請を受け、専門的な観点から教育研究等の質の向上に係る中期目標の達成状況の評価を行うもので、文部科学省（国立大学法人評価委員会）は、その評価結果を尊重することとなっています。

財務室

平成21年度決算について

平成21年度決算を行い、文部科学省へ財務諸表を提出しました。提出した財務諸表は、国立大学法人評価委員会の意見を聴いたうえで、文部科学大臣が承認を行うこととされており、平成22年6月30日付けで財務諸表及び次期中期目標期間へ積立金の繰

越が承認されました。

この承認を受けて、本学のホームページに公表し、9月7日付けの官報に掲載する予定です。URL: <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/zaimu/h21.html>

平成22年度教育研究等重点推進経費の執行計画について

「教育研究等重点推進経費」の第2次及び第3次執行計画（案）が承認されました。採択事業は以下のとおりです。

第2次執行計画

部 局 等 名	事 項 名
研究・産学連携室	研究企画ワーキンググループ事業費
執行計画額	計 7,842 千円

第3次執行計画

部 局 等 名	事 項 名
研究・産学連携室	最先端ときめき研究推進事業
執行計画額	計 30,000 千円

財務面からの検証について

財務室では、平成21年度に策定しました「学内予算の在り方等に関する基本方針」に基づき、本学の教育研究等活動の更なる向上にむけて、効果・効率的な予算配分となっているかなどについて検証を行うため、財務室の下に「財務面からの検証検討ワー

キング」を設置しました。ワーキングでは、検証における全体の方向性及び仕組みを検討することとし、検証方法等について議論を重ねてきた結果、戦略的経費等における検証方針をとりまとめ、7月21日の部局長会議に報告しました。

今後の要求（継続事業）に係る戦略的経費等における財務面からの検証方針

1. 検証の目的

事業計画に基づいて措置した予算について、当初予定していた効果が得られたかなどの観点から検証を行うことにより、戦略的経費等のより効率的・効果的な配分に資することを目的とする。

2. 検証の対象

大学基盤推進経費、教育研究等重点推進経費及び全学強化経費で前年度から継続して実施する事業とする。

3. 検証の方法

- (1) 予算配分した事業について個々に検証する。
- (2) 事業計画と執行実績とを対比させ、次の方法により行う。
 - ・計画と実績との内容比較による検証
 - ・当初計画との比較を通して、経費区分毎に事業目的への貢献度を検証
- (3) 計画と対比する実績は、次のものを対象とする。
 - [23年度要求における具体的事例]
 - ・平成21年度以前からの継続事業
 - 平成21年度及び平成22年度上半期分の実績

- ・平成22年度からの継続事業
平成22年度上半期分の実績

4. 検証結果の反映

検証に基づき、①事業予算総額の増減、②経費区分毎の配分額調整、③予算措置の取り止め等を財務室が決定する。
なお、大学基盤推進経費については、検証結果を総長に報告し、総長が決定する。

5. 検証等スケジュール

速やかな事業の開始に向け、人員雇用や調達契約等の事前準備の期間を確保するため、例年より早い時期に公募し、年内に採択事業の内示を行うスケジュールとする。

10月初旬	各経費（継続事業）の公募
10月下旬	提出期限
11月初旬～中旬	財務室によるヒアリング
11月中旬～12月中旬	検証
12月下旬	採択事業の決定、内示（※）

（※）なお、新規要求事業の採択が決定（平成23年3月頃）するまで、採択事業の一部について内示を留保することがある。

第1期中期目標期間において戦略的経費等で措置した事業の検証について

1. 検証の目的

第1期中期目標期間に措置した事業が本学の教育研究等活動の向上にどのように寄与したかの観点から検証を行うことにより、第2期中期目標期間における戦略的経費等の配分案の策定に資することを目的とする。

2. 検証の方法

- (1) 複数年度継続して実施した事業と設備を導入した事業の中から、一定の金額以上の事業を抽出して検証を行う。
- (2) 継続事業については、既に事業が終了しているものを対象とし、当初計画と執行実績との比較を通して、事業全体が当初の目的を果たせたかなど、事業目的への貢献度を検証する。
- (3) 設備を導入した事業については、設置場所において、導入設備と稼働状況等を確認する。

3. 検証結果の反映

検証結果のとりまとめを行うことにより、今後の要求に対する採択決定の際の参考情報として活用する。

4. 検証等スケジュール

平成22年8月～10月初旬	検証
10月上旬～10月下旬	検証結果とりまとめ
11月下旬	各経費（新規事業）の公募
12月下旬	提出期限
平成23年1月～2月上旬	財務室による書類審査、ヒアリング
2月中旬～2月下旬	各経費における採択審議 (必要に応じて検証結果を活用)

人事労務室

改正育児・介護休業法施行に伴う制度改正について

「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」（育児・介護休業法）の改正に伴って、平成22年6月30日から、本学の就業規則等の一部改正を行いました。

その主な内容は以下のとおりです。（学内専用ポータルサイトにパンフレット「改正育児・介護休業法施行に伴う制度改正について（お知らせ）」を掲載しておりますので、詳細についてはそちらをご覧ください。）

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/diversity/work_life_sup

(1) 育児休業の適用拡大

①父母がともに育児休業を取得できるよう改正

配偶者が専業主婦（夫）や育児休業中である場合であっても、育児休業の申出をすることができるようになりました。これにより、父母がともに子が満3歳に達するまで育児休業を取得できるようになりました。

②出産後8週間以内の育児休業取得の促進

出産後8週間以内に育児休業を取得した場合には、特別な事情がなくても、再度の育児休業を取得できるようになりました。

③再度の育児休業が認められる特別の事情の追加

④申出に関する特別の事情の追加

⑤育児休業の休業期間等の通知

育児休業の申出を受けた場合には、

- ・申出を受けたこと。
- ・育児休業開始予定日と終了予定日
- ・（申出を受けることができない場合には）そのこと及びその理由

をお知らせすることとしました。

(2) 子の看護休暇の拡充

これまで、子の看護休暇の付与日数は、年5日を限度としていましたが、養育する小学校就学の始期に達するまでの子が1人の場合は年5日、2人以上の場合は年10日を限度とすることとなりました（常勤職員、非常勤職員ともに有給の扱い）。

（※ただし、「継続勤務期間が6か月に満たない方」と「1週間の所定労働日数が2日以下の方」を除きます。）

また、子の看護休暇の理由として、「子に予防接種又は健康診断を受けさせること」が追加されました。

(3) 短時間勤務制度の継続と短時間勤務職員等への

導入

短時間勤務職員又は短時間教育研究等職員（1日の勤務時間が7時間以上ある場合に限る。）である方々についても、常勤教職員と同様に、子の養育又は家族の介護のための短時間勤務（子の養育は1日2時間まで、家族の介護は1日4時間まで）をすることができるようになりました（常勤教職員については現行制度を継続）。

（※ただし、「継続勤務期間が1年に満たない方」、「1週間の所定労働日数が2日以下の方」、「1日の所定労働時間が6時間以下の方」、「交替制勤務に従事する方」を除きます。）

(4) 育児のための所定外労働の制限

3歳に満たない子を養育する方が請求した場合には、所定外労働をさせてはならないこととなりました。

（※ただし、「継続勤務期間が6か月に満たない方」と「1週間の所定労働日数が2日以下の方」を除きます。）

(5) 時間外労働の制限

配偶者が専業主婦（夫）や育児休業期間中である場合等であっても、小学校就学の始期に達するまでの子の養育をする場合には、時間外労働の制限の請求をすることができるようになりました。

(6) 介護休業の休業期間等の通知

介護休業の申出を受けた場合には、

- ・申出を受けたこと。
- ・介護休業開始予定日と終了予定日
- ・（申出を受けることができない場合には）そのこと及びその理由

をお知らせすることとしました。

(7) 介護休暇の創設

要介護状態にある対象家族の介護等を行う方は、対象家族が1人の場合には年5日、2人以上の場合は年10日を限度として、介護等のための休暇を取得することができることとなりました（常勤職員、非常勤職員ともに有給の扱い）。

（※ただし、「継続勤務期間が6か月に満たない方」と「1週間の所定労働日数が2日以下の方」を除きます。）

大学としては、育児又は家族の介護を行う方々にとって、職業生活と家庭生活との両立を図ることができるよう、よりよい制度設計に取り組んでまいりたいと考えています。

「くるみん」を取得しました！！

このたび本学は、厚生労働大臣から次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主」として認定されました。大阪労働局管内では、公立・私立大学を含めて大学として初めての認定となります。

本学では、「次世代育成支援対策推進法」に基づき、教職員の仕事と子育ての両立を支援するための「一般事業主行動計画」を策定し、様々な制度改正などをおこなってまいりましたが、その成果が評価されたものです。

（今回評価された一般事業主行動計画－平成17年4月～平成22年3月－）

1. 休暇請求事由の拡大を行い、1日又は1時間単位での取得を可能としたこと。
2. 男性職員の育児参加のための休暇を新設したこと。
3. 介護休暇を請求しやすくするため、請求期限の緩和をしたこと。
4. 男性も育児休業を取得しやすいように促進のための周知をしたこと。
5. 育児・介護をする職員が、フルタイムで働きなが

ら家庭責任を果たすことを支援するため、早出遅出の始業・終業時刻での勤務ができる制度を導入したこと。

6. 子の看護休暇の取得方法を弾力化したこと。

これにより、今後、本学で作成する印刷物等に、認定マーク「くるみん」を使用することができますので、是非、ご活用ください。

また、本学では、新たな一般事業主行動計画（平成22年4月～平成27年3月分）を以下のとおり決定し、厚生労働大臣に届け出ております。大阪大学は、引き続きワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現のために積極的に取り組んでまいります。

1. 育児休業取得者に対して、「次世代育成支援に関する手引き」を配布する。
2. 教職員が利用できる搾乳スペースを可能な部署から順次確保する。
3. 男女共同参画推進に関するセミナー、講演会、シンポジウム等を実施する。



認定マーク「くるみん」

「くるみん」は厚生労働省の一般公募により決定したマークで、赤ちゃんが大事に包まれる「おくるみ」と、「職場ぐるみ・会社ぐるみ」で子供の育成に取り組もうという意味が込められています。

広報・社会学連携室

吹田市制施行70周年記念事業「吹田の知 集結&発信」合同講演開催

平成22年7月11日(土)に吹田市メイシアターにおいて、吹田市が平成22年4月1日に市制施行70周年を迎えたことを記念し、吹田市内にある4大学1研究機関の合同企画として合同講演を開催しました。

開会セレモニーとして、関西大学応援団による演舞に続き、関西大学楠見学長による「地下水から見える関西文化の源泉」、国立民族学博物館吉田教授による「万博から民博へ」、大阪学院大学山内教授による「安全に楽しくスポーツ・運動を実施するためにはーランニングを中心として」、千里金蘭大学寺口教授による「地域連携の意味と意義」の後、本

学文学研究科堤教授による「ソーシャル・キャピタルと地域活性化ー人口減少社会における地域生活機能の維持ー」と題しまして、過疎地域の地域生活の問題を考えることを通して、人口減少社会における地域生活機能を維持していく要点を講演頂きました。

当日は激しい雨の降る生憎の1日となりましたが、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、講演会場となりました大ホール前のホワイエにおいて、4大学1研究機関の紹介展示ブースを設け、プロジェクター投影や大学案内などの冊子を参加者にお配りしました。



国際交流室

APRU（環太平洋大学協会）学長会議

標記の会合が6月30日から7月2日までニュージーランドのオークランド大学で実施されました。APRU（Association of Pacific Rim Universities）（アプルと呼びます）はその名の通り、太平洋を取り巻く国々の著名大学42校で構成する大学コンソーシアムで1997年に設立されました。当初、カリフォルニア大学バークレー校、ロサンジェルス校、南カリフォルニア大学、カリフォルニア工科大学の学長が話し合い、34大学をメンバーとして構成されました。最近、このコンソーシアムの活動が大変活発であることから、加盟を希望する大学が増えています。規模を大きくすることは却ってスムーズな活動を妨げるであろうとの判断で、メンバーを増やすことには大変慎重です。日本の大学では、本学のほか、東京大学、京都大学、早稲田大学が古くからのメンバーで、最近、慶應義塾大学と東北大学が新たに加盟しました。理事長は長い間、南カリフォルニア大学のサンプル学長が務めていましたが、その後、シン

ガポール国立大学のフォン学長、慶應義塾大学の安西塾長が務め、今年の学長会議でカリフォルニア大学サンタバーバラ校のヤン学長が選出されました。事務局は現在シンガポール大学におかれています。

学長会議では前年度の活動報告ならびに次年度の活動計画、財務状況などが審議されます。今後約一年間の主な行事予定は下表の通りです。

本学においては、前号でご紹介しましたように学内にAPRU/AEARU学内WG（委員長：山内直人国際公共政策研究科教授（国際交流室員））を設け、これらの活動に積極的に参加してゆく方針をとっています。APRU/AEARUの加盟大学はいずれも著名な大学で、国際共同研究、国際教育交流などのネットワーク形成に有益です。また、下表に記されている分野での参画のほか、全く新しい企画の提案も可能ですので、積極的な参加をお奨めします。ご関心のある方は是非、本WGへコンタクトしていただきますようお願いいたします。

2010-2011 のイベント

イベント名	主催大学	日程
Annual Presidents Meeting	Tsinghua University (China)	Apr 22-24, 2011
Senior Staff Meeting	Chulalongkorn University (Thailand)	Mar 9-11, 2011
Chief Information Officers Forum	National Autonomous University of Mexico	Oct, 2011
Education and Research Technology Forum	National Autonomous University of Mexico	Oct, 2011
Undergraduate Summer Program	Zhejiang University (China)	TBC
Doctoral Students Conference	Tsinghua University (China)	Jul/Aug
Research Symposium - Brain & Mind Research in the Asia Pacific (biennial symposium)	Seoul National University	Aug 23-25
Research Symposium - Multi-hazards around the Pacific Rim	Peking University (China)	Aug 27-29, 2010
Research Symposium - Aging/Gerontology	National University of Singapore	Oct 11-15, 2010
Law Deans Meeting	Chulalongkorn University (Thailand)	Oct 14-16, 2010
Research Symposium - Nano-biology & Molecular Biology	Kyoto University (Japan)	Nov 24-26, 2010
Education Deans Meeting	University of Hong Kong (Hong Kong)	Dec 1-2, 2010
Business Deans Meeting	TBC	TBC

※ TBC: To be confirmed

海外における留学生リクルートのための広報活動

G30に採択されて以来、アジア、ヨーロッパ、アメリカなどで幅広く留学生リクルートのための広報活動が行われてきました。今年は以下のようにいくつかのイベントが開催される予定になっています。

①大阪大学留学プログラム総合説明会（阪大留学フェア）・同窓会（9月4日）

これは本学バンコク教育研究センターが、G30その他本学のインターナショナル・プログラムの広報を行うことを目的に企画したものです。鷲田総長をはじめ、理系・文系の研究科が参加し説明会・模擬授業などを行う予定です。同センターのこれまでに培ったネットワークを活用し、高校生、学部生、大学院生だけでなく、その父母も参加するようなイベントを計画しています。また、同日に咲耶会バンコク支部と共催で同窓会を開催する予定です。

②北京大学における大阪大学デー（9月20日～21日）

産業科学研究所の八木康史教授のリーダーシップで北京大学において大阪大学デー、つまり大阪大学だけの広報を行うイベントを開催します。産業科学研究所はもとより、理学研究科、情報科学研究科、蛋白質研究所のほか文系の部局の参加も予定されています。本学上海教育研究センターも参加します。これをきっかけにこの中国の名門大学との交流を飛躍的に進めて行きたいと考えています。

③上海教育研究センターの開所式（10月21日）

同センターは本年2月に設置されましたが、正式な開所式は諸般の事情により10月に行われることになりました。近隣の有力大学・研究機関等にも参加いただき、大阪大学を十分アピールできるよう準備を進めています。

理系短期受入プログラム FrontierLab@OsakaU の拡充

FrontierLab@OsakaUは2008年から受入を開始した新しいプログラムで、外国の大学の学部・大学院生が理系の研究室に配属され、卒業研究に匹敵する研究を実際に体験することのできるプログラムです。多くの研究科・研究施設の協力を得てすでに100名以上の受入を達成してきました。極めて優秀な学生の参加もあり、短期受入プログラムとしてまずは成功していると自負しています。このプログラムは大学院の場合、受入れ期間、すなわち研究に従事する期間が最低3ヶ月、学部の場合、本学の学期に合わせるという制約が設けられています。これは、研究を主体とすることから教育の質保証を的確に行うためです。

しかしながら、この枠組み以外にも、短期、あるいはそれよりももっと短い期間の受入プログラムに対するニーズも多いことが明らかとなりました。そのため、3ヶ月未満の場合に対応するFrontierLab_mini@OsakaU、ならびに本学の学期には必ずしも合わない場合にもこの枠組みを利用できるFrontierLab_flex@OsakaUの2つを新たに開発し、実施を開始しました。これらの2つについては、そのような受入プログラムを行うパートナーが当初から決まっている、例えば協定大学との間でまとまった形で学生交流を行うことを計画するような場合に活用することができます。詳しくは国際部学生交流推進課までお問い合わせください。

新規の大学間学術交流協定締結について

外国の大学との学術交流協定締結に関する基本方針については、本誌平成21年4月号でご紹介したように、交流の実績が現時点では十分でなくても、コンタクトパーソンが複数部局で適切に選任され、対象となる大学との将来の交流計画及び今後の交流の継続性が明確であれば、最初から大学間学術交流協定を締結する方向で具体的検討に移すことができます。昨年度はG30の海外キャンペーンが活発に行われた結果、大阪大学に対して交流促進の希望が多

くの大学から寄せられています。また、外国の大学の学長・副学長クラスの来訪も盛んで、多くの場合大学間学術交流協定締結への要請があります。交流のネットワーク構築し、さらに拡大させる意味で、現在80大学（過去10年間で50増加しています）と結んでいる大学間学術交流協定数を増やすのが望ましいと考えておりますので、新たな協定締結を前向きにお考えの先生方は、具体的な手続きについて国際交流課までお問い合わせください。

学生支援ステーションの これまでの取り組みとこれから

教育・情報室 学生支援ステーション・サブリーダー
太刀掛 俊 之

■ 学生支援ステーションが設置されました

学生支援ステーションは、大学生活でのさまざまな問題や悩みについて解決のお手伝いをするため、本年1月に正式に立ち上がりました。従来から、学生部には、学生生活相談室・障害学生支援室・就職相談室の3つの室がありましたが、それぞれの室にまたがる相談や対応について連携を深めるとともに、各学部の何でも相談室や保健センター学生相談室などの部署とのネットワークを構築するため、3つのユニット（学生生活相談ユニット・障害学生支援ユニット・進路相談ユニット）が連携しながら、学生支援ステーションとして活動する体制を取っています。

■ ステーション・カフェを定期的で開催しています

学生支援ステーションのねらいとして、さまざまな学生に対する居場所（コミュニティ）の提供を行うため、各キャンパスにある個別の相談を行う部屋に加えて、学生の皆さんが気軽に立ち寄れる「学生支援コミュニティスペース」を本年3月から設けています（図1）。このスペースは、学生支援ステーションの活動拠点となっており、相談がある

場合には必要に応じて適切な窓口を紹介する職員（インターカー）が在席しています。また、ステーション・カフェを定期的開催することで、日々の授業や研究室の活動から離れた形で、日ごろの学生生活を気軽に話せる場をつくる試みを行っています。

これまでのステーション・カフェでは、映画鑑賞会、フィンガーペインティングとコラージュ作業からなる「ファンタジーグループ」と呼ばれる活動（図2）、豊中緑化リーダー会のボランティアの方々との園芸活動（図3）、学



図2：ステーション・カフェ（ファンタジーグループ）の様子



図1：学生支援コミュニティスペース（豊中学生センター2階）



図3：ステーション・カフェ（園芸体験）の様子

内の清掃、除草、園芸、駐輪整理といった業務を担当されている知的障害のある職員の皆さん（通称：エコレンジャー・グリーンレンジャー）を交えた園芸活動を行ってきました。いずれも少人数の参加ではありますが、それぞれの行事の終わりには、お茶をしながら日常生活を中心にした話題で交流を深め、概ね好評をいただいております。（詳細は33ページをご覧ください）

■ 学生支援ステーションへお越しください

もちろん、学生支援ステーションでは、ステーション・カフェのほか、皆さんの相談に対して、それぞれの教員や職員が専門分野を活かした対応を行っています。学生生活相談ユニットでは、実際にあったケースとして、「研究室に行きづらくなってしまった」、「いつの間にかカルト団体に入っていた」といった相談から、「学生生活を通じて〇〇を実現したい」といったものまで、必要に応じて関係の部署と連携しながら助言を行っています。また、障害学生支援ユニットでは、相談のみに留まらず、障害や慢性疾患を有する学生の全般的な支援の調整を行っています。さらに、進路相談ユニットでは、キャリア・ディベロップメント・アドバイザー（CDA）の資格を持つ職員を一定期間増員し、単なる就職支援ではなく、自分のキャリアをいかに形成するかというライフスパンの視点から、進路に関するア

ドバイスを行う体制を取っています（図4）。

しかしながら、「進路選択による不安への対処」、「障害をもつ学生への就職支援」、「発達障害の有無が明確でない学生の相談」等の、各ユニットの領域で重なるケースも生じていると考えられます。そこで、さらにきめ細やかな学生支援を行うために、対応事例の分析を行いながら、各ユニット間で連携する仕組みをさらに整備していきたいと考えています。

■ これからの取り組み 「フロントスタッフミーティング」

本年6月には、保健センターの協力のもと、各学部・各研究科・各センターの何でも相談室などの業務に関わる教職員とのネットワークを構築するため、「フロントスタッフミーティング」を実施しました。初めての会合ということもあり、各現場で取り組まれている方々の顔合わせが主な目的となりましたが、今後はこれまで述べてきた取り組みや学生支援の情報を共有する場として機能するよう、学生支援ステーションのメンバーも研鑽を積んでいく予定です。引き続きご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

何かあったら一人で悩まずに学生支援ステーションへ！

私たちは、いつでもみなさんのお越しをお待ちしています。また、様々なイベントを企画中です。お楽しみに。

学生生活相談ユニット

進路相談ユニット

障害学生支援ユニット

開室時間・地区および連絡先（予約不要・直接お越しください） <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/career/support>

	吹田地区	豊中地区	箕面地区		吹田地区	豊中地区	箕面地区		吹田地区	豊中地区	箕面地区
時間	午後1時～5時			時間	午後1時～5時			時間	正午～5時		
曜日	木	水・金	月	曜日	金	月・火・木	水	曜日	火・木	月・水	金
電話	(06) 6879-7078	(06) 6850-6651	(072) 730-5089	電話	(06) 6879-7078	(06) 6850-5027	(072) 730-5089	連絡先	電話・FAX: (06) 6879-4762	電話・FAX: (06) 6850-6107	電話・FAX: (072) 730-5089
※進路(就職)相談ユニット：開室日時を臨時拡大中。詳細は上記URLへ											
E-mail : shien@ch.wani.osaka-u.ac.jp											

図4：学生支援ステーションの開室日
URL http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/support_st



学生支援ステーションのロゴマークは、3つのユニット活動、そして3つの「S」（Student Support Station）から構成されています。それらは、大阪大学のシンボルマークであるイチョウの葉が3つ集まったように、また、明るい色と動きで、親しみやすさが表現されています。

平成22年度 共通教育ティーチング・アシスタント研修開催

平成22年度の全学共通教育科目の授業を担当するティーチング・アシスタント（以下TA）を対象とした研修が、4月8日(木)に文系総合研究棟講義室401および402で行われました。TAとして業務に従事する学生に、教育に参加することの意義や役割等を理解してもらい、円滑にTA業務に就いてもらうことを目的とした研修で、今年度は248名が参加しました。

最初に工藤真由美大学教育実践センター長から、「大阪大学の教育目標と全学共通教育について」と題して説明が



行われました。本学の教育理念、教養教育の概要が説明されたのち、ステューデント・コモンズや教育実践集「魅力ある授業のために」などの取組が紹介されました。

次に、常木和日子教授（前TA活用専門委員会委員長）から、TA制度の基本的な趣旨、職務内容や従事時間、そしてTAとしての責任と権限等を中心に、TAの位置づけと業務等について説明がなされました。

さらに、齊藤貴浩准教授（TA活用専門委員会委員）から、今年度に試行として作成された「TAハンドブック」の要約を参照しつつ、TAの業務を遂行するにあたって留意すべき点が網羅的に紹介されました。

最後に、共通教育TA経験談として、人間科学研究科D1の鈴木彩加さん、理学研究科D1の池田正弘さんより、実際に体験したTAの実務について、そしてTAとして注意すべき点について、学生の立場から自らの経験を語ってもらいました。

今後、大学教育におけるTAの役割、そしてキャリア形成の機会としてのTA経験はますます重要となると考えられ、TAへの研修はそれを支援する中心的取組として期待されます。

（大学教育実践センター）

芝哲夫名誉教授（理学研究科）講演会の開催

4月27日(火)、豊中キャンパス、ステューデント・コモンズ2階セミナー室において、芝哲夫名誉教授の講演会「Osaka-Dutch Relationship in the Meiji Restoration in Japan」（明治維新期の大阪－オランダ関係）が、日蘭学生会議、大阪大学人文系海外短期研修委員会主催、大阪大学インターナショナル・トレーニング・プログラム共催で開催されました。

当初、この講演会は4月20日に予定されていましたが、アイスランドの火山噴火の影響によりオランダ・スキポール空港が閉鎖されたため、グローニンゲン大学の学生12名の来日が延期となり、一週間遅れで開催されました。

当日は、芝名誉教授の教え子である理学研究科の教員や関係者が多数参加し、英語による講演をグローニンゲン大学の学生と共に聴講しました。明治期の大阪とオランダの交流、大阪大学の礎となった緒方洪庵塾、大阪医学校の設立、哲学の変遷など多岐に渡る日蘭交流についての有意義な講演でした。講演後、日蘭双方の学生による活発な質問、



意見交換が行われ、盛会のうちに終了しました。

来年はグローニンゲン大学で日蘭学生会議が開催される予定であり、学生による自主的な国際交流の活発化が大いに期待されています。

（理学研究科・理学部）

上海国際博覧会（上海万博）への出展について（報告）

5月1日から10月31日まで、中華人民共和国（以下、中国）上海市にて開催されている上海国際博覧会（以下、上海万博）において、大阪大学が展示ブースを出展しております。

大阪大学の展示ブースは、上海万博のベストシティ実践区にある大阪府・大阪市ケース内にあります。大阪府・大阪市ケースでは、「環境先進都市 水都大阪の挑戦」をテーマとして、大阪における環境技術や先進的取り組みが紹介されています^[1]。この中で大阪大学は、排熱から電気を生み出す熱電変換技術を体感する展示ブースを出展しています。

熱電変換とは、固体のゼーベック効果を利用して、熱を電気に直接変換する技術です。現在一次エネルギーの約七割が排熱として捨てられている状況のもと、この技術を用いて排熱を回収し電気エネルギーとして有効利用する試みが注目を集めています^[2]。大阪大学では、主に工学研究科や産業科学研究所において熱電変換技術に関する研究が活発に行われており、世界トップレベルの研究成果を発信しています^[3]。

大阪大学の展示ブースは、図1に示されているように三つの部分に分かれています。向かって左側のパネルでは大阪大学の概要を、向かって右側のパネルでは熱電変換の原理や応用例を、それぞれ英語と中国語で紹介しています。中央のパネルには、熱電変換素子を埋め込んだ手の平の形をした器具にファンを取り付けた熱電発電体感モジュールを五機設置しています。モジュールの熱電変換素子部分に手を置くと、手の温度が素子に伝わって発電しファンが回転する仕組みとなっています。

この大阪大学の展示を確認するために、6月1日に、現地を視察してきました（図2）。体感型展示ということもあり、多くの方がブースの前で足を止め、熱電変換素子の上に手を置いて、ファンが回るのを楽しんでおられました。



図1 大阪大学の展示ブース

また、大阪大学の紹介パネルを熱心にご覧になっている方も多く見受けられました。大阪館の方にお話を伺うと、大阪大学の展示ブースの人気は非常に高く評判も上々とのことでした。

全体で連日、約40万人の入場者がある中、大阪市によると5月開幕から6月末までに大阪館への入館者は494,334人あり、現在でも毎日約1万人が訪れているとのことでした。

上海万博のような大きな国際博覧会で大阪大学の展示ブースを出展していることは、中国国民の方々に大阪大学を知っていただく大変良い機会になっていると思います。この展示をきっかけにして、大阪大学と中国との間の教育・研究に関する交流がより一層活発になればと期待しております。

[1] 上海万博大阪出展 HP (<http://expo2010-osaka.jp/index.html>)

[2] 熱電変換技術ハンドブック、【監修】梶川武信、(株)エヌ・ティー・エス、2008年12月発行。

[3] 例えば、J. P. Heremans et al., Science, 321, 554-557 (2008)。



図2 大阪館の入り口（左）と大阪大学展示ブース見学の様子（右・筆者）

工学研究科環境・エネルギー工学専攻准教授 黒崎 健
(国際部国際連携課)

薬学部・薬学研究科 外国人留学生等歓迎パーティー開催

薬学部・薬学研究科外国人留学生等歓迎パーティーが、5月11日(火)薬学研究科2号館セミナー室において、約120名の参加を得て開催されました。

パーティーは小林資正研究科長の開会挨拶、藤岡弘道教授の発声による乾杯で始められ、外国人留学生、外国人研究員に加えて、多くの教員、学生が加わり、留学生間の交歓に加え、留学生にとって日頃接する機会の少ない他分野の教員、学生と懇談する良い機会となりました。

外国人留学生・研究員の出身国は、中国、マレーシア、オーストラリア、ブルガリア、エジプト等と様々でしたが、自己紹介の際には流暢な日本語で、学業・研究に対する抱負を語り、拍手喝采が送られました。終始、楽しい雰囲気の中で懇親を深め、八木清仁教授による閉会挨拶の後に名残を惜しみつつ散会となりました。



(薬学研究科・薬学部)

「スウェーデン留学フェア2010ースウェーデンを知るー」開催

スウェーデン大使館と世界言語研究センター主催で、5月19日(水)、豊中キャンパス大学教育実践センターの大講義室にて「スウェーデン留学フェアスウェーデンを知るー」を開催しました。本学での開催は平成20年度以来2度目ですが、今回は大学教育実践センターと外国語学部の協力で、世界言語研究センター高橋美恵子准教授と石黒暢准教授担当の共通教育科目「欧米の文化と社会を知る 北欧事情概説」の授業とタイアップする形で実施しました。

「留学フェア」は高橋明世界言語研究センター長の開会



留学フェアでスピーチされる
ステファン・ノレーン駐日スウェーデン大使

の辞に始まり、ノレーン大使のスピーチ、財団法人スウェーデン社会研究所所長・須永昌博氏とスウェーデン大使館広報部報道補佐官・速水望氏のスウェーデン留学の意義と留学準備についてのご講演、さらに外国語学部スウェーデン語専攻4年生の荒森優子さんと大島佑香さんによるスウェーデン留学体験談の後、清水育男世界言語研究センター教授の閉会の辞で幕を閉じました。同科目の受講生だけではなく、スウェーデン留学に高い関心をもつ本学学生や一般の参加者もあり、会場は熱気に包まれていました。参加者は当日のアンケートに回答した者だけで264名に達しており、成功裡に終わったものと確信しています。

日頃より本学のスウェーデン語教育と研究活動を高く評価されているノレーン大使の強いご要望により、今回再び本学で「留学フェア」を開催する運びとなりました。また、平成20年度と同様に、「留学フェア」に先立ち行われた、大使とスウェーデン語専攻の学生との懇談会では、スウェーデン大使館科学技術部科学技術参事官・アンデシュ・カールソン教授と留学フェアの講演者も交えて活発な意見交換が行われ、学生達のスウェーデン語運用能力の高さに、賞賛のお言葉を頂戴しました。

(世界言語研究センター)

科学教育機器リノベーションセンター・吹田ブランチ開所式

科学教育機器リノベーションセンター・吹田ブランチの開所式が5月21日(金)に行われました。平成19年4月に設立された本センターは、当初、豊中キャンパスの旧工作センターの建物に設置されましたが、全学的なリユース機器開発、先端汎用性機器開発やそれらの共同利用を積極的に推進するためには、吹田キャンパスにおける活動拠点をもつことが望まれており、この度、産業科学研究所に建設されたインキュベーション棟の最上階(4階、約1000㎡)に科学教育機器リノベーションセンター吹田ブランチが開設されました。吹田ブランチにはリユースおよび先端機器利用の事務室、リユース機器促進室のほか、専任教員(岡田美智雄教授、橋之口道宏助教)を配置した先端機器開発室が置かれています。9月からはリユース機器の一部や先端開発機器(高性能小型マルチターン飛行時間型質量分析計、全固体真空紫外レーザーによる超微細加工装置)が搬入されますので、共同利用機器として学内外の多くのユーザーにご利用いただけるものと期待しております。これら



の機器利用講習会を随時開催しますので、ご参加ください。なお、年2回、リノベーションセンターニュースレターを発行(創刊号は9月を予定)することになりました。今後もニュースレターやホームページ(<http://www.reno.osaka-u.ac.jp>)を通じて利用機器に関する最新情報を提供してまいります。(科学機器リノベーションセンター)

大阪大学産業科学研究所 インキュベーション棟竣工披露式典を開催

産業科学研究所では、6月9日(水)に、3月に完成したインキュベーション棟の竣工披露式典を開催し、企業関係者を中心に約140名が出席されました。

インキュベーション棟は、全国初となるナノテク分野等のオープンイノベーションのためのオンキャンパス型インキュベーション施設で、棟内に開設する企業リサーチパークを通じて産学連携を推進することを目的として建設されました。

竣工披露式典は、山口明人所長の開会の辞、鷺田清一総長による挨拶に引き続き、文部科学省研究振興局学術機関

課課長補佐渡邊和良氏、伊藤忠商事株式会社代表取締役会長小林栄三氏よりご祝辞を頂いた後、経済産業省近畿経済産業局地域経済部長国吉浩氏による記念講演が行われました。式典後には見学会が行われ、インキュベーション棟及び産業科学研究所施設を見学しました。

見学会終了後には祝賀会が開催され、財団法人産業科学研究協会理事長安達稔氏にご祝辞を頂いた後、門田守人理事・副学長の乾杯の発声により和やかな雰囲気に参加者相互の意見・情報交換が行われ有意義な祝賀会となりました。



山口所長



小林代表取締役会長

(産業科学研究所)

「理学研究科・理学部ハラスメントに関する研修会」を実施

理学研究科・理学部では、全ての者が互いに尊敬し合い、対等にコミュニケーションを行い、平等に能力を発揮し、協力し合う環境の整備が必要と考えています。これは、教育研究活動で十分な成果を上げ、社会的使命を果たしていくためにも重要なことです。この環境整備の一環として、①ハラスメントの防止等に関する規程を設け、②理学研究科等ハラスメント対策委員会並びに部局相談員を置き、③ハラスメントの防止に研究科・学部を挙げて取り組むとともに、④平成12年から毎年、新任教職員・学生を対象として研修会を行ってきました。

本年は、大阪大学におけるハラスメント防止等に関する規程が改正されたことに対応するため、これまでセクシュアル・ハラスメントに関してのみ行っていた研修会をハラ



スメント全般に関する研修会に改め、6月7日(月)、6月23日(水)、6月28日(月)に理学部D501講義室において実施しました。本研修会は、新人に限らず教職員・学生全員を対象に、前半は「セクシュアル・ハラスメントを防止するために ～大阪大学の現状から～」と題して、大阪大学ハラスメント相談室専門相談員の中野冬美氏、中嶋雅美氏、青木あさ代氏を講師としてお招きし、後半は「大阪大学のハラスメント対策について」と題して、大阪大学ハラスメント相談室長の東島清研究科長が大阪大学の新しいハラスメント対策について説明を行う2部構成としました。

研修会当日は、理学研究科等ハラスメント対策委員会の篠原厚委員長(6月28日は川村光副委員長)の挨拶があり、引き続き専門相談員から具体的な事例を基に、セクシュアル・ハラスメントを防止するために知っておかなければならないこと、セクシュアル・ハラスメントの被害に遭った場合の相談体制について講演をしていただきました。

また、東島研究科長からは、図表等を交えて、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントを含めた大阪大学のハラスメント防止・相談・対処体制の紹介がありました。

上記3日間にわたり前年度を上回る約310名の参加者があり、非常に熱心に聴講する姿が見られ、ハラスメントの防止に対する意識を高めることができました。

(理学研究科・理学部)

平成22年度 ハラスメント相談員研修会実施

平成22年度ハラスメント相談員研修会が6月21日(月)及び24日(木)に文・法・経中庭会議室及び銀杏会館会議室Bにおいて実施されました。

本研修は、本年4月からセクシュアル・ハラスメントに加え、アカデミック・ハラスメント及びパワー・ハラスメントの問題に対処するため、ハラスメント相談室が設置されてから、初めての研修として実施されたものであり、ハラスメントの全学相談員及び部局相談員の役割とセクシュアル・ハラスメントに関する相談を受けるための必要な知識について理解を深めることを目的に、37名の参加者を得て開催されました。

研修では、ハラスメント相談室長の東島 清理学研究科教授から挨拶の後、ハラスメント相談体制について、東島相談室長及び副室長の木村涼子人間科学研究科教授から説明が行われました。

引き続き、セクシュアル・ハラスメント相談室の小田切由里、周藤由美子、杉本志津佳、植木美恵子各専門相談員による「セクシュアル・ハラスメント相談を受けるにあた



って一相談者の立場に立つ相談とは？」と題する講義とロールプレイが行われました。

受講者は熱心にメモを取るとともに、活発な質疑応答などが行われ、好評のうちに終了しました。

(総務部ハラスメント対策事務室)

大学教育実践センター 特別講義開催

6月17日(木)6時間目(18時から)、堀江正彦 駐マレーシア日本国大使による特別講義「大阪から世界へ クアラルンプールから大阪へ」を文系総合研究棟4階401・402講義室にて実施しました。この講義は、共通教育科目「世界は今―サンフランシスコから」「関西は今」の一環として行われましたが、「世界は今」、「関西は今」の受講生だけでなく、学部生・大学院生、さらには堀江大使の同級生の方々など多数の参加者がありました。



堀江大使は、大阪大学法学部・経済学部を卒業され、外務省に入省、フランス、アメリカ、カタール、



ケニア、デンマーク駐在を経て現在駐マレーシア大使としてご活躍されていますが、今回の特別講義では、この間の外交官としての経験や裏話、マレーシアの歴史、文化、政治について熱く、わかりやすく語っていただきました。

今回はじめての試みとして、Internet回線を使って講義の生中継を行いました。講演中は常時20名弱の視聴があり、マレーシアからのアクセスもあったようです。講演記録の視聴数は6月29日現在127となっています。

(大学教育実践センター)

共通教育科目別FD実施責任者会議(平成22年度第1回)実施

6月25日(金)15時より、大学教育実践センター大会議室において、平成22年度第1回共通教育科目別FD実施責任者会議を開催しました。出席者は16名(専任教員4名を含む)でした。

共通教育科目別FDは、FDの義務化を受け、より実効性のある活動を目指して平成20年度より実施しています。今回の会議では、今年度の実施方法等について議論を行いました。最初に科目別FD実施の趣旨について説明が行われた後、科目FDの実施内容・方法について説明がなされ



ました。実施体制については、授業評価アンケートの「くくり」を基本として部会(ないしは小部会)を構成し、そこを単位として何らかのFDを実施し、報告書の提出を求めるという昨年度までの方式を基本にして実行することとしました。実施内容については過去2年の「共通教育科目別FD実施報告書」などを参照して各部会で実情に応じて決めること、今年で3年目であることから教育改善への反映を念頭に置いて実施することとしました。

今年度は重点項目として、FD推進部門より、授業公開・授業見学の実施とポートフォリオシートの活用促進の提案がなされました。とりわけ前者については、平成18年度以降の共通教育賞受賞者に授業公開・授業見学の可否に関するアンケート調査を事前に実施し、その結果を提供しました。多くの受賞者から公開・見学を可とする回答をいただいたので、関係する部会において、科目別FDとして積極的に採り入れていただくことをお願いしました。広報の必要がある場合は実践センターで協力することとしました。また、可能であれば、共通教育賞受賞者に限らず部会内で授業公開・授業見学を検討いただくことを要請しました。

(大学教育実践センター)

前期1年生クラス代表懇談会開催

6月17日(木)の昼休み(12時10分～12時50分)を利用して、1年生の前期クラス代表懇談会が実践センター、ステューデント・コモンズ2階セミナー室Iで開催されました。この懇談会は、授業・カリキュラムや学習環境など大学教育実践センターが関係する問題全般について、教職員と学生で話し合うために開催されています。今回、本部から、情報推進部情報基盤課の脇坂道久専門職員、学生部学務課の岡本安生学生サービス第二係長、また学生生活相談室から太刀掛俊之准教授をお招きしました。1年生のクラス代表は、96人中81人が参加し、教職員は24人が参加しました。

まず、工藤真由美センター長から、有意義な学生生活を送るよう学生を激励する言葉が述べられました。続いて眞



鍋昭治郎副センター長から「学習支援サイト」の内容の説明がなされました。さらに、服部憲児准教授からはパンキョー革命についての話があり、授業の改善に向けて積極的な活動を促す話がありました。窪田高弘カリキュラム開発部門長からは、今年度後期に新たに開講が予定されている「文系学生のための自然科学体験」の説明が行われました。続いて、クラス代表学生がつね日頃感じている諸問題についての自由な発言が行われました。福利施設については、たとえばDON DONの内部は比較的空いていてもレジ付近が非常に混んでいること、「宙」ではミールカードが使えないのが不便である、といった意見が出ました。また紙コップの自動販売機を増やしてほしいという要望もありました。「宙」を午後8時に閉めてしまうのはなんとかならないか、という要望もありました。スクールバスについては、夜遅くまで運行してほしいという要望がでました。保健センターが昼休みに閉まっていることについて、学生の体調が悪いときのことも考慮して昼休みも開けてほしいという要望もありました。その他、カルチエの図書の貸し出しをしてほしい、落し物は一か所に集めてほしいという要望等も出ました。

事前アンケートで出た要望・意見と、それに対する回答は、センターのウェブ・ページに掲載する予定になっています。

(大学教育実践センター)

知的財産センター・高等司法研究科・法学研究科附属法政実務連携センター主催 公開講義「ベンチャー社会と法 法律事務所の立ち上げのシミュレーション」

6月29日(火)に、南川博茂高等司法研究科特任教授(弁護士)によるコーディネートの下、外山弘弁護士、尾崎一浩弁護士、戎卓一弁護士をお迎えし、公開講義「ベンチャー社会と法 法律事務所の立ち上げのシミュレーション」を開催しました。

講義では、学生たちが事前に考えた「法律事務所の起業計画」を基に、弁護士の先生方と学生たちとの間で計画の目的や実現性などについて活発な議論が行われました。弁護士の先生方には、学生たちが普段の授業では学ぶことができないような、法律事務所経営についてのやりがいや問題点などについて話していただき、学生たちにとっても、自らの法曹としての将来像を思い描く上で非常に良い経験となったようです。また、今回は本講義の受講生であるロースクール生以外にも、学部生も多く聴講に訪れ、議論や先生方のお話に真剣に聞き入っていました。

参加者からは「弁護士の先生方との議論を通して、今までにない新しい視点、考え方に触れることができた。」「弁



南川特任教授

護士事務所経営の難しさを知った。単に司法試験合格だけを目指せば良いわけではないことが分かった。」「法律家としての本分、法律家にとって最も大切なことは何かについて学ぶことができた。」等の感想が寄せられました。

(知的財産センター、高等司法研究科、法学研究科・法学部)

学生支援ステーション Station Café (第3回・第4回) 開催

学生支援ステーションでは、6月11日(金)に第4回 Station Café「園芸体験(苗の植えかえ編)」を、6月28日(月)及び7月5日(月)に第3回 Station Café「Fantasy Group～指で、掌で、自由に絵を描いてみませんか?」を、学生支援コミュニティスペース及び箕面キャンパス福利棟2階において開催しました。

園芸体験(豊中開催)では、豊中緑化リーダー会の方々
に指導をいただき、枝豆、金蓮花、百日草の植えかえを行
いました。

Fantasy Group(箕面開催)では、フィンガーペイン
ティングとコラージュを無言で行う中、「絵ではないところ
から感じるものが多かった」、「時間や日常を忘れてアート
するのが不思議だったがおもしろかった」と大変好評でし
た。

今後も、さまざまな学生が交流できる機会や場づくりを
目的にして Station Caféを開催していきます。こんなイベ
ントをやってほしい等、ご意見・ご要望があれば、学生支
援ステーションまでお寄せください。



屋上庭園での植えかえ作業(園芸体験)



フィンガーペインティングの様子(Fantasy Group)



コラージュの様子(Fantasy Group)

(学生支援ステーション/キャリア支援課)

平成22年度 外国人留学生見学旅行実施

留学生に日本の地域と文化を知ってもらうとともに、参
加者同士の交流を深める目的で、6月12日(土)から13日(日)
の2日間、鳥取県内をめぐる旅行を企画実施しました。参
加者は外国人留学生38名、チューター5名、教職員6名
の合計49名でした。

1日目は、用瀬町の「流し雛の館」を訪れました。係の
方から流し雛について説明を受けた後、流し雛の制作体験
を行いました。

次に、鳥取砂丘へ移動しました。バスを降り、馬の背と
呼ばれる小高い砂の山へ登り始めたものの、砂に足を取ら
れ歩きにくいため、靴を脱ぎ裸足で歩く参加者も多く見ら
れました。

2日目は小雨の天候の中、倉吉市内にある鳥取二十世紀

梨記念館に向かいました。記念館では、鳥取県の梨栽培に
関する映像を見た後、さまざまな展示を見学しました。

その後、鳥取市内のわらべ館に向かいました。ここは子
供の歌とおもちゃをテーマにした文化施設であり、古い日
本の学校教室が再現されています。参加者は皆教室の椅子
に座ったり、教壇に立つなど、古い日本の学校の教室を体
験しました。

今回の旅行は参加者に好評で、留学生にとっては今回の
ような旅行が交流の重要な機会になっていることが伺えま
した。また、日本独特の地理、歴史と文化に触れ大変興味
を感じていた留学生が多かったことから、今回の留学生旅
行が大変有意義な学生・留学生支援になると感じられまし
た。



ながしびな体験



鳥取砂丘



20世紀梨記念館



わらべ館
(大学教育実践センター)

第11回(平成22年度) 課外研究奨励費伝達式

第11回(平成22年度)課外研究奨励費の伝達式が、鷺田清一総長、小泉潤二理事・副学長、大垣一成学生生活委員会委員長、東明彦学生イベント実行委員会委員等の出席のもと、6月24日(木)本部棟301会議室において行われました。

課外研究奨励費は、「学部学生の研究意識の向上」を目的とし、個人又はグループ単位の学生自身による正課以外の研究テーマを募集し、独創的かつ意欲的であると認められたテーマに対して授与されるものであり、今年度は創立80周年記念事業として特別枠(テーマA)を設け、通常枠(テーマB)と併せて募集したところ、テーマA 14件、テーマB 15件、合計29件の応募があり、選考の結果、テーマA 4件、テーマB 7件、合計11件の研究テーマが採択されました。

伝達式では、初めに大垣委員長から選考経過について説明があり、続いて鷺田総長から受賞者に対して賞状授与と講話があり、その後、各受賞者から研究の抱負等が述べられ、終始和やかな雰囲気の中終了しました。

〈今年度採択されたテーマ〉

【テーマA】

- ・車両性能と投資コストを評価関数としたレーシングカー高効率開発プロセスの研究及びそれに基づく学生フォーミュラ車両の開発
- ・人的資本形成にかかわる大阪大学の可能性～有意義な学生生活をめざして



- ・世界初、無尾翼人力機の実現を目指して
- ・大阪大学の中国戦略と国際ブランド力の研究

【テーマB】

- ・トルコ映画「蜂蜜」(09年ベルリン国際映画祭金熊賞受賞)の翻訳を通じた文化研究～世界は今 トルコの森から～
- ・テルミンを基にした近接センサーの応用について
- ・子どもたちの町中の居場所のデザイン・製作に関する実践的研究―地域交流室「おひさまルーム」の活用の検討を通して―
- ・NHK大学ロボコン優勝を目指して
- ・独創的な菌体マイクロマシンの設計および機能解析
- ・国際法模擬裁判大会への取り組みを通じた国際法の研究
- ・自律航行ヨットの開発～びわ湖クルーレス・ソーラーボート大会を目指して～

(学生部学務課)

平成22年度 安全衛生に関する説明会の開催

6月25日(金)及び29日(火)に、吹田地区は歯学部記念会館、豊中地区は総合図書館において、それぞれ平成22年度安全衛生に関する説明会を開催しました。本説明会は、「本学における安全衛生管理システム」、「機械設備の届出ルール」、「機械設備の定期自主点検」について理解を深めていただくことを目的に毎年開催しているものです。

当日は、本学が積極的に推進している「定期巡視システム」、「事故情報収集システム」を中心に、その理念・内容について説明がありました。また、労働安全衛生法等に基づき届出が必要な機械設備の種類や定期自主点検の実施方法について具体的な説明がありました。参加者は、2日間で約150名でした。

(安全衛生管理部)



「機械設備の届出ルール」について説明する
安全衛生管理部・近藤裕司係員

平成22年度 大阪大学新入教職員安全衛生講習会の開催

5月26日(水)、27日(木)コンベンションセンター・MOホールにおいて、平成22年度大阪大学新入教職員安全衛生講習会を開催しました。本講習会は、新たに本学の教職員となられた方を対象に安全衛生管理の基本的な事項について理解を深めていただくことを目的に毎年開催しているものです。

安全衛生管理部・富田賢吾講師からは「労働安全衛生法と本学における安全衛生管理」について、保健センター・守山敏樹センター長からは「健康管理」について、それぞれ具体的な事例を踏まえた分かりやすい説明がありました。

参加者は、2日間で約200名でした。

(安全衛生管理部)



講習会場の様子（コンベンションセンターMOホール）

平成22年度 大阪大学安全講演会の開催

7月7日(水)医学部銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて、平成22年度大阪大学安全講演会を開催しました。本講演会は、全国安全週間（7/1～7/7）にあわせて毎年開催しているものです。

今年度は前・豊中市危機管理監の梅田幸治氏をお招きし、「大学における危機管理」と題してご講演いただきました。

当日は、梅田氏が豊中市消防本部又は市長部局での現役時代に関わった事件や事故の対応事例で体得された危機対応の原則をご紹介いただき、大学での危機管理の考え方や実践について具体的な示唆に富んだ説明がありました。参加者は、約120名でした。

梅田氏は、平成22年3月に豊中市を退職後、同年4月に本学安全衛生管理部招へい教授に就任され、本学の安全衛生、危機管理業務にご助言をいただいております。

梅田幸治・前豊中市危機管理監
(本学安全衛生管理部招へい教授)

(安全衛生管理部)



普通救命講習会の実施

5月中旬から6月中旬にかけて各市消防本部の協力を得て豊中、吹田、箕面の3キャンパスで普通救命講習会を実施しました。本講習は、突然怪我や病気で倒れた方に対して行う心肺蘇生法（人工呼吸、心臓マッサージ）やAED（自動体外式除細動器）の使用法を習得することを目的に実施したものです。5日間を通じて126名の参加があり、修了者には各市消防本部から修了証が交付されました。

(安全衛生管理部)



普通救命講習会の様子

平成22年度 大阪大学春季安全衛生集中講習会の開催

5月31日(月)～6月4日(金)にかけて、平成22年度大阪大学春季安全衛生集中講習会を各キャンパスで開催しました。本講習会は、安全衛生意識の向上を図るとともに、事故・災害の発生の防止及び健康の保持・増進を目的に毎年実施しているものです。

講習会では、全部局に共通する安全衛生管理の基本や健康管理に関する講習の他、化学薬品、酸欠、核燃料物質、高圧ガス、電気、レーザーといった様々な専門分野に関する講習を開講しました。参加者は、全日程で約1,300名でした。

日	6月3日(月)		6月1日(火)		6月2日(水)		6月3日(木)		6月4日(金)	
会場	吹田 総合体育館 2F 多目的ホール 1,000人	豊中 総合体育館 6F 図書ホール 1,000人	吹田 総合体育館 3F 図書ホール 1,000人	豊中 総合体育館 6F 図書ホール 1,000人	吹田 総合体育館 3F 図書ホール 1,000人	豊中 総合体育館 3F レイ室 1,000人	豊中 管理棟 4F 4.0.3会議室 300人	吹田 総合体育館 3F 図書ホール 1,000人	豊中 総合体育館 6F 図書ホール 1,000人	吹田 総合体育館 2F 講堂 1,500人
第1日	8:50									
第1日	9:20	機械設備の点検ルールについて 塩谷 隆志 近藤 裕司 (60分)		核燃料物質 安全講習 藤原 敬 (60分)	酸欠事故防止 安全講習 富田 賢吾 (60分)	大阪大学高圧ガス 管理システム (OOS)利用講習 百瀬 英毅 (60分)		健康安全管理 (メンタルヘルス編) 星立 浩持 (60分)	酸欠事故防止 安全講習 富田 賢吾 (60分)	機械設備の点検ルールについて 塩谷 隆志 近藤 裕司 (60分)
第2日	10:20									
第2日	10:30	核燃料物質 安全講習 藤原 敬 (60分)	高圧ガス・液体薬劑 に関する安全講習 (低圧・中圧・高圧) 竹内 豊也 (90分)	大阪大学薬品管理 システム(OOS)利用講習 角井 伸次 (90分)	詳細 化学物質安全 取扱講習 富田 賢吾 (60分)	高圧ガス・液体薬劑 に関する安全講習 (低圧・中圧・高圧) 竹内 豊也 (90分)	健康安全管理 (メンタルヘルス編) 三上 卓哉 (60分)	自主管理をベースとした 安全管理 山田 孝 (60分)	詳細 化学物質安全 取扱講習 富田 賢吾 (60分)	高圧ガス・液体薬劑 に関する安全講習 (低圧・中圧・高圧) 百瀬 英毅 (90分)
第3日	11:30									
第3日	12:00									
第3日	13:00									
第3日	13:30	電気コンセントと 電気配線の安全講習 百瀬 英毅 (60分)	高圧ガス・液体薬劑 に関する安全講習 (低圧・中圧・高圧) 竹内 豊也 (90分)	電気コンセントと 電気配線の安全講習 百瀬 英毅 (60分)	非化学系のための 薬品取扱講習 山本 仁 (90分)	高圧ガス・液体薬劑 に関する安全講習 (低圧・中圧・高圧) 竹内 豊也 (90分)	自主管理をベースとした 安全管理 山田 孝 (60分)	大阪大学薬品管理 システム(OOS)利用講習 角井 伸次 (90分)	非化学系のための 薬品取扱講習 山本 仁 (90分)	高圧ガス・液体薬劑 に関する安全講習 (低圧・中圧・高圧) 百瀬 英毅 (90分)
第4日	14:30									
第4日	14:40	レーザー取扱に 関する安全講習 百瀬 英毅 (60分)			阪大の事故を考える 富田 賢吾 (60分)				阪大の事故を考える 富田 賢吾 (60分)	大阪大学薬品管理 システム(OOS)利用講習 角井 伸次 (90分)
第5日	15:40									
第5日	16:10									
第5日	17:50									

※ 同一名称の講習は、基本的に同じ内容です。ご都合のよい日程で受講願います。

平成22年度春季安全衛生集中講習会タイムスケジュール

(安全衛生管理部)

第15回 環境月間講演会開催

6月22日(火)に工学部共通講義棟U3-211教室において第15回「環境月間講演会」を開催しました。大阪府立大学名誉教授・宝塚大学名誉教授の保田淑郎(やすだとしろう)先生を講師にお招きして、「今、われわれは何故、自



講演中の保田淑郎先生

然を守らなければいけないのか」の演題で昆虫分類学のご専門の立場から講演して頂きました。

環境とは人間を取り巻く全てのモノと考えることができます。人間の環境は、一番近いところに人為環境、すなわち社会、経済、宗教など文化、文明、が取り巻いています。人間が生きていく上で重要な部分で日本ではこの人為環境が大きく取り上げられて環境問題が「公害」の形で提示されてしまいました。これは我々にとっては不運であって、自然環境に対する関心が遠のいてしまったことになり、里山の荒廃につながってしまいました。身のまわりで起こった具体的な例を挙げながら、立ち止まって自然の大切さを見据えていただきました。

まさに市民講座にふさわしい講演内容であり学内外から約150名の聴講があり盛況な講演会となりました。講演終了後も学外聴講生による質問にも対応していただきました。

(環境安全研究管理センター)

名誉教授招待懇談会開催

6月25日(金)に本年度の名誉教授招待懇談会が82名の名誉教授出席のもと銀杏会館で開催されました。

懇談会に先立ち開催された施設見学会では、産業科学研究所のご協力のもと、本年4月に竣工した産業科学研究所・インキュベーション棟の見学が行われました。

懇談会は、鷺田清一総長の挨拶で始まり、秋の例会以降に逝去された名誉教授の追悼、新名誉教授の紹介の後、本年度日本学士院賞を受賞された村井眞二先生(工)並びに春の叙勲で瑞宝中綬章を受章された長谷川晃先生(工)及

び加賀谷寛先生(大阪外国語大学)から大学時代の教育・研究活動等についての思い出などを含めご挨拶いただきました。

次いで、鷺田総長からの本学の教育、研究、社学連携事業等について近況報告が行われました。

続いて開催された懇親会では、中村勝吾先生(産)の発声により乾杯が行われ、出席者は互いに近況を報告されるなど旧交を温めつつ、終始和やかな雰囲気の中、閉会となりました。



日本学士院賞受賞の
村井眞二名誉教授
(工学研究科)



瑞宝中綬章受章の
長谷川晃名誉教授
(工学研究科)



瑞宝中綬章受章の
加賀谷寛名誉教授
(大阪外国語大学)



乾杯の発声を行う中村勝吾名誉教授
(産業科学研究所)

(総務部秘書課)

平成22年度 大阪大学主任研修(新任)実施

平成22年度大阪大学主任研修(新任)が、6月21日(月)から23日(水)までの3日間にわたりコンベンションセンターで行われました。

本研修は、本学において新たに主任の職になった者52



尾山理事・副学長による開講式挨拶

名を対象として「その立場と役割を再認識させるとともに、マネジメントに関する理解を深め、職務に対する応用を図る。また、自己啓発の指針を確立させることにより職員の資質の向上を図る」ことを目的として、実施されたものです。

尾山眞之助理事・副学長による開講式挨拶の後、学外の研修講師による講義・演習により研修が進められました。

受講生は、タイムマネジメントという視点から、普段の仕事の進め方を振り返るとともに、仕事の効率化について理解を深めました。また、主任に求められる後輩指導力や新人育成の考え方を確認し、そのために必要なコミュニケーションスキルについて、活発なグループワークを通じて学びました。

受講生全員が意欲的に課題に取り組み、所定の課程を修了しました。

(総務部人事課)

表敬訪問

サウジアラビア・King Abdulaziz大学副学長の表敬訪問について

5月31日(月)サウジアラビア王国 King Abdulaziz 大学 Zahed, Adnan Hamza M 副学長、Bafail, Abdullah Omar A 同大学副学長、Essam Bukhary サウジアラビア王国大使館文化部専門職員が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、奥山雅則ナノサイエンスデザイン教育研究センター特任教授、藤井章吾世界言語研究センター准教授、ホサーム・カースィム世界言語研究センター特任准教授が同席され、将来的な大学間協定の締結について意見交換が行われました。その後、御一行は、澤芳樹医学系研究科教授と新井健生基礎工学研究科教授の研究室を訪問されました。

(国際部国際交流課)



Zahed 副大学長より記念品を受けとる
辻理事・副学長

ザンビア共和国Mbikusita W. Lewanika駐日大使の表敬訪問について

6月21日(月)ザンビア共和国大使館 Mbikusita W. Lewanika 駐日大使御一行が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、澤村信英人間科学研究科教授、ヴァージルホーキンス・グローバルコラボレーションセンター特任助教、亀岡雄国際部長が同席され、ザンビアの大学と大阪大学の今後の相互交流促進に向けての懇談が行われました。

(国際部国際交流課)



中央左手：辻毅一郎理事・副学長
右手：Mbikusita W. Lewanika 駐日大使
以下左より：亀岡雄国際部長、澤村信英教授(人科)、
ヴァージルホーキンス特任助教(グローバル)
Rosemary Banda 一等書記官
Sylvester Mundanda 参事官

第14回 APRU年次学長会議開催

本学が加盟するAPRU (Association of Pacific Rim Universities; 環太平洋大学協会) の第14回年次学長会議が、6月30日(水)～7月2日(金)の間に、オークランド大学(ニュージーランド)で開催され、本学から辻毅一郎国際交流室長、亀岡国際部長、江藤国際交流課長が出席しました。

APRUは環太平洋地域を代表する大学の学長で構成される多国間ネットワークのひとつです。環太平洋地域社会にとって重要な、経済発展、技術移転、大気汚染、等の諸問題に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として1997年に設立されました。現在の加盟大学数は

16カ国42大学にのぼっています。

今年の年次学長会議は“Global Challenges-Pacific Perspectives”をメインテーマとし、約90名の学長や



シニアスタッフが参加して、アジア・太平洋地域が直面する地球規模の諸課題に向けた大学のチャレンジについて取組例の紹介や議論を行いました。

なお、来年度の学長会議は中国・清華大学がホスト校となり4月22日から24日にかけて開催される予定です。

(国際部国際交流課)

**緒方洪庵生誕200周年記念事業
「市民公開講座」「公開講座**

いのちを見つめて」「学術国際シンポジウム」開催

医学系研究科・医学部は、去る7月10日(土)～13日(火)の4日間にわたり、大阪国際会議場において、緒方洪庵生誕200周年記念事業として、「市民公開講座」「公開講座 いのちを見つめて」「学術国際シンポジウム」を開催しました。

この事業は、医学部のみならず、本学の原点である適塾を興した蘭学者緒方洪庵の生誕200周年を記念して実施したもので、来年迎える本学の創立80周年記念事業関連行事としても開催しました。

7月10日は、一般市民を対象とした「市民公開講座」を開催し、平野俊夫大学院医学系研究科長・医学部長より、「緒方洪庵生誕200周年の記念すべき年に、今一度大阪大学医学部の来し方を振り返り、今後の進むべき道を考えるとともに、医学の主題である”いのち”の意味を今一度考える機会にしたい」という挨拶がありました。米田悦啓医学系研究科副研究科長の司会により講座が開催され、鷺田清一総長、緒方洪庵五代目・緒方惟之氏、尾身茂自治医科大学地域医療学センター教授、岸本忠三元総長、平野研究科長の5氏による講演がありました。鷺田総長は、大阪の“自由”と題して、大阪人のLiberality、寛容さ、気前の良さ、産学連携の気風について語られました。続いて、緒方惟之氏が洪庵の生い立ちや人となりを貴重な写真を使用して話されました。尾身教授は、適塾から始まった我が国の天然痘撲滅の努力から、世界の感染症対策の現状をわかりやすく講演されました。岸本元総長は、いかに人と人との出会いが重要か、また人を育てる重要性を論じられました。最後に平野研究科長が、医学教育の国際化を進めるとともに、未来の医療を担う研究マインドを有し、かつ“いのち”を大切にする医師を育てる医学教育の重要さと、21世紀適塾への展望を語られました。会場を埋めつくす約300名の参加があり、参加者は講演を熱心に聞き入り、終始活気のある雰囲気で行われました。

7月11日は、医学部生をはじめとした学生を対象に、「公開講座 いのちを見つめて」を開催し、午前は特別講演と題し、映画監督の龍村仁氏、NPO 法人ささえあい医療人権センター COML 理事長の辻本好子氏に講演いただきました。龍村氏は、20年間、地球交響曲第7番の製作などを



緒方洪庵に関する書物・遺品等の展示を鑑賞する参加者

通じて、宇宙、地球、時空と生命の問題を問い続けてこられました。医学が取り扱う究極の問題である“いのち”に関して、ガイア理論に基づきあくまでも直感に満ちあふれた独自の境地を語られました。辻本氏は、患者側と医療側の深い河をうめるべく20年間努力されてこられた体験に基づき、「現在の“病んでいる日本の医療”を健やかなものにする為には、医療側はもちろんのこと、患者側の努力も必要であり、双方が歩みより、理解し、納得すること、そして何よりも重要なことは、お互いが聞く耳を持って“聴(ゆる)す”ことが重要である」と話されました。

午後は「本学医学部卒業生による講演」と題し、梅村聡参議院議員、安田直史国連児童基金 HIV エイズ専門官、橋本康弘株式会社メディックグループ代表取締役社長、林崎良英独立行政法人理化学研究所横浜研究所オミックス基盤研究領域長、作家・久坂部羊氏の5氏に講演いただきました。この日は医学部生のみならず他学部生や一般市民を含め、約200名の参加がありました。参加者は、講師による学生時代、研修医時代の思い出、現在の職業に就いたきっかけ、現在の仕事の生きがい、人間としての医師とプロとしての医師の葛藤と“いのち”の意味などについて哲学的な問題等にも踏み込んだ講演に聞き入り、活発な質疑応答が行われました。医学部学生はもちろん参加者全員が“いのち”の意味を見つめ直す絶好の機会となりました。

7月12日～13日は、グローバルCOE「オルガネラネットワーク医学創成プログラム」による学術国際シンポジウムを開催し、緒方洪庵が天然痘の予防接種を世に広める活動を行った経緯を踏まえ、「感染症」を主体としたテーマで、国内外の微生物学、免疫学、細胞生物学で著名な研究者による最新研究成果の発表がありました。

また、上記公開講座・シンポジウム開催期間中、緒方洪庵に関する書物、遺品等の展示会を同時開催し、参加者は展示品のひとつひとつを鑑賞しつつ、在りし日の緒方洪庵を偲んでいました。

(医学系研究科・医学部)



平野医学系研究科長・
医学部長による講演



鷺田総長による講演

洪庵忌―適塾の夕べ―開催

適塾を開いた緒方洪庵の命日（6月10日）に、洪庵の遺業を偲ぶ催し「洪庵忌―適塾の夕べ―」が本年も6月7日(月) 適塾1階客座敷において開催されました。

今回は、鷺田総長をはじめ、各部局長、適塾記念会役員など関係者約30名の出席があり、当時の塾生が学んだ時



藤田教授

と同じような雰囲気の中、齊藤慎経済学研究科教授が「地方分権と統合―ローカリズムとグローバリズムの相剋」、また、藤田一郎生命機能研究科教授が「見る」ことの背景～脳が私を操る、私が脳を操るのではなく～」と題してそれぞれ講演を行いました。



齊藤教授

(企画部広報・社会学連携事務局)

改修工事前のイ号館に、延べ800人以上が集まりました！ 「イ号館リニューアル★キックオフイベント」

21世紀懐徳堂の拠点であり、大阪大学最古の校舎にして国の登録有形文化財「イ号館」。今年8月から来年4月まで耐震改修工事のため使えなくなるのを機に、「サヨナラ」ではなくリニューアルオープンに向けた「キックオフ！」としてのイベントを、7月12日(月)～16日(金)に開催しました。

多目的スタジオでは、アカペラサークル inspiritual voices や軽音楽部 swing のライブ、落語研究部の寄席、お祭りダンスサークル“祭楽人（まだに）”のお祭りダンス、映画上映&トークなど、様々な催しを実施。いつも白一色だったコミュニケーションギャラリーは、自ら名乗りを上げた学生&大阪大学美術部の有志により、照明とウォールペインティング・香りで、日々変化するスペシャルなカフェに変身しました。阪大名物・浪花文化研究会によるたこ焼きや、文学研究科メディア論A演習／メディア人文学特殊演習の受講生映像作品も、イベントを盛り上げてくれました。

来場者からは「阪大にこんな場所あったんや！」という声が随所で聞かれ、多くの方の心にイ号館&21世紀懐徳堂を刻んでもらうことができました。多才でエネルギッシュな学生たちが、出演者・スタッフとしてそれぞれの持ち味を活かし、自分たちのイベントとして取り組んでくれたことも大きな収穫でした。色々な人がコラボレーションできる場をまた作りますので、乞うご期待！

21世紀懐徳堂オフィスの一時移転先は、豊中キャンパ



ス学生交流棟2階（1階は学食「宙（そら）」です）。ギャラリーやスタジオもリニューアルまで使えませんが、移転先でも社会学連携窓口としての活動は変わらず続けますので、お気軽にお訪ねください！

(21世紀懐徳堂)

箕面キャンパス 「大阪大学夏まつり2010」で賑わう!

7月10日(土)に、箕面キャンパスにおいて、今年で第31回目となる「大阪大学夏まつり2010」が開催されました。

この「夏まつり」は、旧大阪外国語大学から数えて実に30年間にわたり学生が組織する「夏まつり実行委員会」の企画により開催されてきた行事です。

今年も近接する粟生間谷地区の他、近隣地域からもご家族連れを含む大勢の一般参加者にご来場いただき、延べ参加人数は昨年を大きく上回る5,377人に及びました。

実行委員会委員や参加者の熱意と同様に、夏本番を思わせる暑さではありましたが、グラウンドや中庭では多くの模擬店が出店し、アジア、中近東、ヨーロッパなど様々な民族料理やドリンク等の提供や、各国の国旗をモチーフにした顔のペイントなど国際色豊かな出店が建ち並び多数の行列ができていました。

また、ステージではバンド演奏やダンスの披露、浴衣美男美女コンテストなどが行われ、中庭ステージでのペリー



ダンスやフラメンコの舞踏、民族舞踊なども多くの観衆で賑わいました。

さらに、外国語学部A棟企画でも、各講義室を会場として邦楽やジャズの音楽演奏や各種サークルの展示、高校生を対象とした大学説明会等が行われ、来訪者を楽しませました。

そして、夏まつり恒例のメインイベントである「盆踊り」が、夕方の午後5時半から2時間にわたり行われ、箕面市の倉田哲郎市長の元気いっぱいの挨拶により学生達の気分も一気に盛り上がり、飾り着けられた提灯のもと、グラウンドの中心におかれた櫓を囲み、この日のために住民の皆様にご指導を受けた実行委員や学生、外国人留学生、地域住民の方々が一緒に何重にも大きな輪になって踊りを楽しみ、地域と一体となった大変有意義なイベントとなりました。



倉田箕面市長



(大阪大学 21世紀懐徳堂)

天神祭奉告祭について

平成22年7月25日(日)に行われる天神祭船渡御に出船する「阪大船」の安全航行を祈願するため、7月12日(月)に大阪天満宮を参拝し、本学マンドリンクラブ11名による奉納演奏を行いました。

高杉英一理事・副学長、マンドリンクラブ代表が本殿での玉串奉納の後、大阪出身のマンドリン音楽の作曲者吉永秀徳氏作曲の「プレリュード3」など2曲の演奏を行いました。

大阪天満宮によると、マンドリンの奉納演奏は、「おそらくはじめて」とのことで、本学学生によるマンドリンの爽やかなメロディーが本殿を包み込みました。



(企画部広報・社会学連携事務室)

学生支援ステーション

「国際協力機構(JICA)青年研修・アフリカ英語圏・障害者支援制度コース」に協力

7月16日(金)に「国際協力機構(JICA)青年研修」プログラムのひとつである「アフリカ英語圏・障害者支援制度コース」の一行23名が大阪大学に視察に来られました。一行は、アフリカ11カ国から、政府組織や民間のケアホーム等において障害者支援に携わっておられる方々で、当日は、学生支援ステーション障害学生支援ユニットの松原崇助教が「Support for Students with Disabilities: A Case of Osaka University」と題した講演を行った後、本学で学ぶ障害のある学生も交えた意見交換が行われました。参加者からは「障害者に偏見を持つような人たちはいないのか。そういった人たちにどのように対処するのか」、「高等教育のなかで聴覚障害者が学ぶことは大変だと思う。聴覚障害のある学生の方に会いたかった」といった意見が出されました。

(学生支援ステーション／学生部キャリア支援課)



講演の様子

「学部・大学院における全学共通教育（教養教育）の実施体制にかかわる意見交換会」報告

大学・大学院改革の必要性は社会の各方面から提起され、大学自身も、従来の教育手法ではこのような社会の要請に対応できないことを自覚しつつある。平成17年の中教審答申『新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の再構築に向けて—』にも見られるように、「大学院教育の実質化」が求められていることも周知のとおりである。とりわけ、大学教育、大学院教育において、各部局単位ではなく、全学的に取り組むべき課題が増加している。

7月5日(月)、銀杏会館で開催された今回の意見交換会は、こういった全学的に取り組むべき課題の中で、特に共通教育及び教養教育を中心に、各大学の取り組みの現状とその実施体制について議論することを目的に開催した。そこでは各大学から多様な取り組みの紹介と、悩みについての率直な意見交換がなされ、国立総合大学の現状と課題が浮き彫りになった点で大変有益であった。本稿では、この意見交換会において議論されたいくつかのトピックについて紹介する。

○語学教育（特に英語教育）

グローバル化の進展に伴い、英語教育の充実が各大学の課題となっている。中でも、名古屋大学の取り組みには注目が集まった。名大では入学時にTOEFLとCriterionを全員に受験させ、習熟度別学級編成の下で1年間教育し、2年次に進む際にその成果を再度TOEFLとCriterion受験によって確認している。その後、さらにe-learningも活用しつつ、リーディング、スピーキング、リスニング、ライティング能力の向上を図っている。北海道大学も同様の試みに着手しており、「全学的にTOEFL等の活用を組み込んだ英語教育」という形態が今後の主流となるのではと感じられた。大阪大学はこの点も含め、英語教育の整備にやや遅れがあると思われ、今後早急に対策を講じていく必要がある。

○大学院の教養教育

大学院に求められる人材育成機能が、かつてのように研究者養成のみではなくなり、多様化していることは繰り返し指摘されているが、各大学ともその方策に苦慮しているところである。しかし多くの大学が、研究科の提供する教育に加えて、何らかの共通教育あるいは教養教育を提供することで対応しようとしていることが明らかになった。北海道大学では、早くも平成12年から大学院共通授業科目を開講し、平成22年度には95科目を開講するに至っている。また九州大学も全学教育科目（低年次用）を高年次学生が履修できるようにするとともに、高年次教養科目を設定し、学部高年次から大学院の学生に履修を推奨している。京都大学も、今年度より二種類の研究科横断型教育プログラムを開講し、大学院共通教育の開発に着手している。いずれ



の取り組みも、本学のCSCD科目や「高度教養教育準備WG」において検討している内容と重なり、大変有益であるとともに、本学での実施体制の整備を急ぐ必要があることがわかった。

○組織の整備

多くの大学では、大学全体で取り組むべき教育課題の増加に対応するため、一元的な組織の構築に向かっている。九州大学の場合、「高等教育推進機構」、東北大学では「高等教育開発推進センター」、京都大学では「高等教育研究開発推進機構」といった具合である。その長には副学長、理事クラスが就任し、全学の共通教育、学習支援、キャリア支援、入試制度の検討、学生生活支援などの多様な課題を統合的に扱おうとしている。意見交換会では、このような教育課題の多様性に対処することのむずかしさが各大学共通の悩みであることや、一元的組織の設計についてもいまだ試行錯誤の段階であることが分かった。しかし、大阪大学も大学教育実践センター単独でこのような教育課題に対応することは困難になっており、組織の整備を検討する時期を迎えていることを痛感した。

○その他

今回の意見交換会では、主観的な議論にはならなかったが、入試体制も今後の重要な検討課題である。北海道大学からは、10年に及ぶ学内での検討を経て導入を決めた、「総合入試」が紹介された。これは入学後の一年間、学生を「総合教育部」に所属させ学習動機、将来設計、適性を十分考えさせたうえで、学部・学科を選択させる仕組み（Late Specialization）である。これは、学問の細分化と学際化の進展に対して大学入試はどうあるべきかという課題についての、一つの解決策であろう。本学においても、このような根本的な視点から大学入試の在り方を検討することが必要になっているように思われた。

教育・情報室 小林 傳司
(教育・情報室)

村井眞二名誉教授・村橋俊一名誉教授「平成22年度日本学士院賞」受賞

村井眞二名誉教授（奈良先端科学技術大学院大学理事・副学長）および村橋俊一名誉教授（岡山理科大学客員教授）が、共同研究「遷移金属分子触媒による有機化合物の骨格形成法と修飾法の開拓」により、第100回（平成22年度）日本学士院賞を受賞されました。日本学士院賞は、学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して授与されるものであり、日本の学術賞としては最も権威ある賞です。

村井名誉教授は、一貫して未踏研究領域の開拓に取り組み、新しい形式の有機合成反応の開発に力を注いでこられました。今回の受賞の主な業績は、炭素－水素結合の活性化を含む触媒反応の開発です。ヘテロ原子の触媒への配位に着目し、アセトフェノンのオルト位の炭素－水素結合がルテニウム触媒存在下、オレフィンに付加することを見出し、炭素－水素結合の活性化反応を有機合成化学のレベルまで高めました。さらに困難な過程である炭素－炭素、炭素－フッ素、炭素－酸素結合など不活性結合の活性化という新しい分野の創成と進展に寄与されました。

村橋名誉教授は、シトクロム P-450 やフラビン酵素を範とする環境調和型の酸化触媒ならびに酸・塩基代替中性触媒に関する新しい概念を提起され、これにもとづく多彩な新形式の触媒反応を開拓され新しい分野を開かれました。長年の課題であったβ-ラクタムの酸化反応を確立し、抗生物質製造の重要な中間体の工業的製造に貢献しました。



後列左から3番目が村井名誉教授、後列右から3番目が村橋名誉教授

さらに、低原子価遷移金属錯体が従来の塩基や酸に代替する触媒として、さらには両性触媒として機能することを見いだされました。塩を生成しないプロセスを開拓した画期的な研究として高く評価されており、多段階合成や自動合成に活用されています。

今回の受賞は、これらの社会的要請の高い、省資源、環境低負荷型の化学プロセス開発に向かう業績が高く評価されたものです。

授賞式は6月21日(月)、日本学士院会館において、天皇皇后陛下ご臨席のもと、執り行われました。

(工学研究科・工学部、基礎工学研究科・基礎工学部)

岸本忠三元大阪大学総長に米国臨床免疫学会会長賞

5月21日(金)フィラデルフィアにて開催された米国臨床免疫学会において、生命機能研究科の岸本忠三寄附講座教授（元大阪大学総長）に President's Award が授与されました。

この賞は、永年に亘る IL-6 に関する一連の研究の成果としてトシリズマブ（アクテムラ）という抗体医薬が開発され、これがリウマチを始めとする自己免疫性炎症疾患に画期的効果を発揮することが証明され、現在世界 70 数カ国にて使用されていることと、この研究を通じて臨床免疫学の発展に大きく寄与したことが認められたことによるものです。



(生命機能研究科)

内田慎哉特任助教「土木学会吉田研究奨励賞」受賞

工学研究科地球総合工学専攻社会基盤工学部門の内田慎哉特任助教が平成21年度土木学会吉田研究奨励賞を受賞しました。大阪大学では初めての受賞となります。

この賞は、コンクリート工学に関する研究に従事する者で、特に独創性があり将来性に富むと認められる満40歳以下の若手研究者に対して授与されるものです。

受賞対象となった研究は、「弾性波シミュレーション解析に基づくコンクリート内部欠陥の非破壊評価手法の構築」であり、コンクリートの非破壊試験に関する専門的な知識を必要とせず、誰が計測を行なっても常に同じ判定結果を得ることが可能なユーザーフレンドリーな方法論の構築を目指したものです。この次世代の非破壊試験についての提言が独創的かつ斬新であるという点を、特に高く評価されたものです。

なお、表彰式は平成22年5月28日(金)にホテルメトロポリタンエドモント（東京）において、土木学会第96回通常総会の際に行われました。



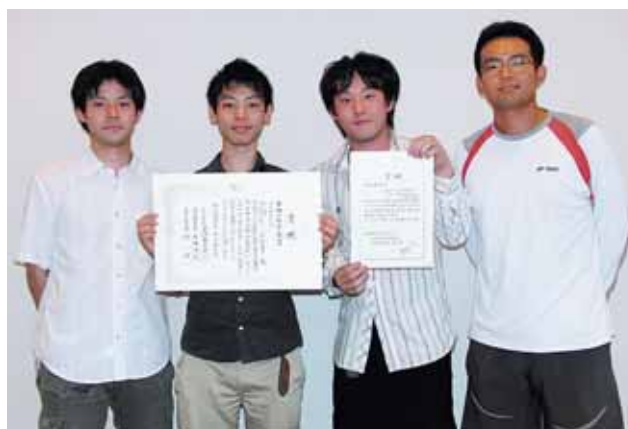
(工学研究科・工学部)

吉元俊輔君、濱田友貴君、徳井隆博君、末竹哲也君「IVRC2009 VR学会賞および未来観客賞」受賞

基礎工学研究科機能創成専攻生体工学領域博士前期課程2年の吉元俊輔君、濱田友貴君、徳井隆博君、末竹哲也君が、平成21年10月22～25日に開催されたInternational collegiate of Virtual Reality Contest2009 (IVRC 2009) において発表を行い、日本VR学会賞並びに未来観客賞を受賞しました。

IVRCは、学生たちの新しい発想を生かしたバーチャルリアリティ作品・インタラクティブアート作品のコンテストで、日本VR学会賞はそのうちの準優勝に当たるチームに与えられる賞です。受賞の対象となった「ダイラタノシー」は、様々な水中の生物に触れた感覚を、水と片栗粉から作ることができるダイラタント流体の性質を利用した力覚提示装置によって表現する作品です。ダイラタント流体の性質に着目して新しい力覚提示装置を開発し、応用にまでこぎつけた点が高く評価されました。

また、独特の感覚を表現した触のエンタテインメントが功を奏し、世代を問わず多くの観客の評価を得たために、観



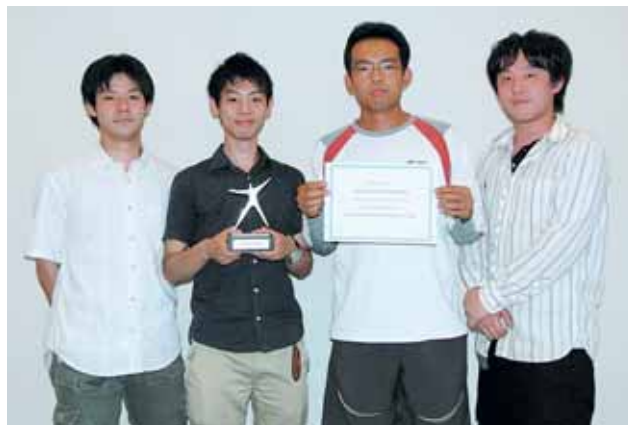
左から、徳井隆博君、吉元俊輔君、濱田友貴君、末竹哲也君
客の投票によって決まる未来観客賞と併せての受賞となりました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

吉元俊輔君、濱田友貴君、徳井隆博君、末竹哲也君「Laval Virtual Awards 2010」受賞

基礎工学研究科機能創成専攻生体工学領域博士前期課程2年の吉元俊輔君、濱田友貴君、徳井隆博君、末竹哲也君が、平成21年4月7～11日に開催されたLaval Virtual 2010 ReVolutionにおいて発表を行い、Laval Virtual Awards 2010 Category "Interfaces and Materials"を受賞しました。

専門家たちで構成される国際的な審査員団から贈られるLaval Virtual Awardは、その規模の大きさではこの分野で世界唯一です。受賞の対象となった「Haptic Canvas」は、水と片栗粉から作ることができるダイラタント流体の性質を利用した力覚提示装置を用いた、対話的な絵画の描画システムです。ダイラタント流体を用いて力触覚を生成する新しいインタフェースの発明と、絵の具を混ぜるように複数の触覚を調合することができる作品のユニークさが高く評価されました。



左から、徳井隆博君、吉元俊輔君、末竹哲也君、濱田友貴君

(基礎工学研究科・基礎工学部)

吉元俊輔君「平成21年度電気関係学会関西支部連合大会奨励賞」受賞

基礎工学研究科機能創成専攻生体工学領域博士前期課程2年の吉元俊輔君が、平成21年11月7～8日に開催された平成21年度電気関係学会関西支部連合大会において発表を行い、平成21年度電気関係学会関西支部連合大会奨励賞を受賞しました。

平成21年度電気関係学会関西支部連合大会奨励賞は、本大会において、論文・口頭発表・ポスター発表の全てを総合して優秀と認められた演題に対して授与される賞です。今回の発表では、物体探索時における指の触覚解析に基づいた触覚提示装置の設計について報告し、研究の新規性とその将来性を高く評価されました。授賞式は平成22年4月16日(金)、大阪市中央電気倶楽部にて行われました。



(基礎工学研究科・基礎工学部)

村本和也君「Young Researcher Poster Award」受賞

基礎工学研究科物質創成専攻物性物理領域博士前期課程2年の村本和也君が、平成22年7月に京都で開催された国際会議 ICSM (International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals) 2010において、Young Researcher Poster Awardを受賞しました。この賞は本国際会議におけるポスター発表の中で優秀な発表を行った若手研究者に対して授与されるものです。授賞式は7月9日(金)、本国際会議のClosing Ceremonyにて行われました。

受賞対象となった研究タイトルは「An origin of reduction of spin injection signals under an application of high bias voltages in a multi-layer graphene spin valve」ですが、本研究はグラフェンを用いたスピントランジスタの実現に向けた研究であり、電子光科学領域白石誠司研究室および物性物理工学領域鈴木義茂研究室の指導の下で行われました。この研究では、グラフェンスピンバルブ素子における高バイアス電圧下でのスピンの偏極率低下の原因がグラフェンと強磁性体の界面の劣化であることを突き止め、グラフェンスピントランジスタの特性向上への重要な指針を得ること



に成功しました。グラフェンを用いたスピントランジスタはbeyond CMOSを指向する新奇デバイスの1つの有力な候補と目されており、今後の発展が大いに期待されています。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

河森正人教授「第31回・発展途上国研究奨励賞」受賞

人間科学研究科グローバル人間学専攻地域研究講座の河森正人教授が、ジェトロ・アジア経済研究所主催の第31回「発展途上国研究奨励賞」を受賞しました。

受賞対象は、河森正人著『タイの医療福祉制度改革』（御茶の水書房）で、平成21年1月～12月の1年間に公刊された図書、論文など発展途上国の経済、社会などの諸問題を調査、分析した著作物で各方面から推薦のあった42点の中から選定されたものです。「発展途上国研究奨励賞」は、途上国に関する社会科学およびその周辺分野の調査研究水準の向上と研究奨励に資することを目的として、昭和55(1980)年度に創設されたものであり、今回は第31回目です。42点は大学や出版社等から推薦されたもので、総所秀紀法政大学経済学部教授を委員長とする選考委員会が選考し、アジア経済研究所が決定しました。同表彰式は、平成22年7月1日(木)に千葉市幕張のアジア経済研究所にて開催されました。



(人間科学研究科・人間科学部)

和田啓助教「日本結晶学会 進歩賞」受賞

理学研究科生物科学専攻（構造生物学研究室）の和田啓助教が、日本結晶学会進歩賞を受賞しました。この賞は、結晶学に関して優秀な研究を発表した若手研究者に授与される賞です。

受賞対象となった研究は、「鉄硫黄クラスター生合成マシナリーの構造生物学」です。和田啓助教は、生物界に普遍的に存在する、電子伝達系ユニット鉄硫黄クラスターの生合成マシナリーに關与する一連のタンパク質を系統的に構造解析することによって、このクラスターがどのように合成されるのかについて重要な知見を与える研究成果を数多く挙げています。SUF と呼ばれる鉄硫黄クラスター生合成マシナリーの構成タンパク質の遺伝学・生化学的解析から、構成タンパク質間の相互作用の変化で様々な多成分複合体が形成されることを示し、SufA、SufC ならびに SufC₂-SufD₂ ヘテロ四量体の結晶構造を決定することによって、

鉄硫黄クラスターの生合成過程の分子機構を明らかにしました。これらの鉄硫黄クラスター生合成の構造機能研究は、マ



表彰を受ける和田助教（右）

シナリー構成要素の機能発現機序を世界に先駆けて解明したものであり、その成果と将来性が高く評価されました。

授賞式および受賞記念講演は、平成 21 年 12 月 5 日（土）から 6 日（日）にかけて関西学院大学で開催された、日本結晶学会 2009 度年会および総会において行われました。

（理学研究科・理学部）

森田靖 准教授「一般財団法人キヤノン財団 第1回（平成22年）「産業基盤の創生」研究助成プログラム」に採択

理学研究科化学専攻の森田靖准教授が、「一般財団法人キヤノン財団 第1回（平成 22 年）「産業基盤の創生」研究助成プログラム」に採択されました。

キヤノン財団は、キヤノン創立 70 周年を記念して平成 20 年 12 月に設立され、今回が初の研究助成です。科学技術をはじめとするさまざまな学術および文化の領域における研究、事業、教育を行う団体・個人に対し幅広く助成・支援を行うことによって、人類の持続的な繁栄と幸福に貢献することを目的としています。「産業基盤の創生」と「理想の追求」という 2 つの研究助成プログラムを設け、全国の大学および大学院、大学共同利用機関、高等専門学校、その他公的研究機関等に勤務する研究者を対象に広く募集を行っています。

「産業基盤の創生」では、日本の強い産業をさらに強化し、あるいは新たな産業を起こすことによって経済発展を促すような科学技術分野にあって、独創的、先駆的、萌芽的な研究を支援することを目的としています。情報・通信、エレクトロニクス、機械・精密、オプティクス・フォトリソ、ナノテクノロジー・材料、応用化学、応用物理など既存の分野のほか、それらの融合分野や新興分野における新たな挑戦的研究が助成対象となっています。

採択研究課題は、「有機分子を活物質に用いた革新的高性能二次電池の開発」（助成金額 20,000 千円）です。今回の採択は、森田准教授が基礎科学研究として長年取り組んできた「電子スピンの分子骨格全体に広く非局在化した有機中性ラジカル」が有する多段階の電子授受能を、電子の

貯蔵・放出に直接活用した「分子結晶性二次電池」の性能向上と電子的動作機序の可視化に関する研究提案が評価されたものです。森田准教授がチームリー



森田准教授（左）、御手洗評議員会議長（右）

ダーとなって推進している、文部科学省委託事業 元素戦略プロジェクト（平成 21 年度～平成 25 年度）における研究と相乗的な発展が期待されています。一連の研究において特筆すべきは、独自に開発した有機中性ラジカルの基礎研究を深化・発展させることで、従来の化合物では実現が困難な機構的にも新しい革新的な高性能二次電池への応用研究を目指している点であり、有機化学の新展開を開拓しつつあります。詳細は、森田准教授のホームページを参照してください。（<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/lab/nakasuji/morita/index.html>）

平成 22 年 4 月 16 日（金）、経団連会館 4 階ダイヤモンドルームにて「第 1 回（平成 22 年）研究助成金贈呈式」が開催され、御手洗富士夫 評議員会議長（社団法人 日本経済団体連合会 会長（当時））から贈呈証を授与されました。

（理学研究科・理学部）

新部長紹介

阿部 顕三 (あべ けんぞう)

大学院経済学研究科長・経済学部長



【略歴】

- 昭55. 3 慶應義塾大学法学部政治学科卒業
- 57. 3 神戸商科大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
- 60. 3 神戸商科大学大学院経済学研究科博士後期課程単位修得退学
- 60. 4 名古屋市立大学経済学部助手
- 61. 4 立命館大学経済学部助教授
- 平 2. 2 博士(経済学)(神戸商科大学)
- 3.10 大阪市立大学経済学部講師
- 4. 4 大阪市立大学経済学部助教授
- 7.10 大阪大学経済学部助教授
- 10. 4 大阪大学大学院経済学研究科助教授
- 11. 5 大阪大学大学院経済学研究科教授
- 18. 4 大阪大学財務・会計室員(平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学財務室員(平22.3まで)
- 22. 6 大阪大学大学院経済学研究科長・経済学部長(平24.6まで)

大西 匡光 (おおにし まさみつ)

金融・保険教育研究センター長



【略歴】

- 昭55. 3 京都大学工学部数理工学科卒業
- 57. 3 京都大学大学院工学研究科修士課程数理工学専攻修了
- 58. 3 京都大学大学院工学研究科博士後期課程数理工学専攻退学
- 58. 4 京都大学工学部助手
- 平 4. 4 東北大学経済学部助教授
- 8.10 大阪大学経済学部助教授
- 10. 4 大阪大学大学院経済学研究科助教授
- 14. 3 博士(経済学)(大阪大学)
- 14. 5 大阪大学大学院経済学研究科教授
- 22. 4 大阪大学教育研究評議員(平24.3まで)
- 22. 8 大阪大学金融・保険教育研究センター長(平24.7まで)

新施設長紹介

澤 芳樹 (さわ よしき)

臨床医工学融合研究教育センター長



【略歴】

- 昭55. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 55. 4 大阪大学医学部外科学第一教室において研究に従事
- 55. 6 大阪大学医学部附属病院において臨床補助の研修に従事
- 55. 7 医員(研修医)(大阪大学医学部附属病院)
- 56. 7 医療法人川崎病院診療部外科医師
- 58. 1 大阪府立母子保健総合医療センター病院周産期第三部(心臓外科)非常勤嘱託員(レジデント)
- 58. 8 大阪府立母子保健総合医療センター医員(昭60.6まで)
- 61.11 医員(大阪大学医学部附属病院)(平1.10まで)
- 63. 2 医学博士(大阪大学)
- 平 2. 3 ドイツマックスプランク研究所フンボルト財団奨学生
- 4. 1 大阪大学医学部研究生(外科学第一教室)
- 4. 2 大阪大学助手医学部
- 10. 4 大阪大学講師医学部
- 11. 4 大阪大学講師大学院医学系研究科
- 14. 8 大阪大学助教授医学部附属病院
- 18. 1 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 21.11 京都大学iPS細胞研究センター客員教授
- 22. 6 臨床医工学融合研究教育センター長(平24.6まで)

新教授紹介

金 谷 学 (かなや まなぶ)

産学連携推進本部総合企画部



所 属：産学連携推進本部総合企画部
専門分野：研究評価、標準化、電波監理

【略歴】

昭57. 3 東京大学工学部電気工学科卒業
57. 4 郵政省電波監理局技術調査課
59. 7 郵政省通信政策局技術開発企画課
60.12 郵政省通信政策局技術開発企画課企画係長
63. 1 郵政省電気通信局電波部周波数課第四周波数係長
平 1. 7 国際電信電話株式会社ロンドン事務所
4. 7 郵政省放送行政局放送政策課課長補佐
6. 7 郵政省電気通信局電波部移動通信課無線局検査官
7. 6 郵政省近畿電気通信監理局放送部長
9. 7 郵政省官房総務課調査官
10. 6 郵政省官房国際部国際政策課調査官
11. 7 郵政省官房国際部国際政策課国際機関室長
12. 7 衆議院調査局通信調査室次席調査員
13. 1 衆議院調査局総務調査室次席調査員
14. 8 総務省情報通信政策局通信規格課長
16. 7 総務省総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課長
17. 8 総務省総合通信基盤局国際部国際協力課長
19. 4 総務省沖縄総合通信事務所長
21. 7 内閣府参事官（重点分野担当）
22. 7 大阪大学教授産学連携推進本部

嶋 津 岳 士 (しまづ たけし)

大学院医学系研究科



所 属：大学院医学系研究科生体統御医学講座
（救急医学）
専門分野：救急医学・災害医学・外傷・中毒・熱傷

【略歴】

昭55. 3 大阪大学医学部医学科卒業
56. 6 済生会神奈川県病院医員
59. 7 米国陸軍外科学研究所研究員
62. 6 大阪大学大学院医学系研究科（博士課程）単位取得退学
62. 6 大阪大学助手医学部
平元. 3 医学博士（大阪大学）
元. 7 関西労災病院重症治療部医長
4. 7 大阪大学医学部研究生
4.10 医員（大阪大学医学部附属病院）
5.12 大阪大学講師医学部
9. 8 大阪大学助教授医学部（附属病院救命救急センター副部長）
11. 4 大阪大学助教授大学院医学系研究科
17.10 大阪大学病院教授医学部
19. 4 大阪大学准教授大学院医学系研究科
20. 1 近畿大学教授医学部附属病院
22. 6 大阪大学教授大学院医学系研究科

中 村 隆 夫 (なかむら たかお)

大学院工学研究科



所 属：大学院工学研究科環境・エネルギー工
学専攻量子エネルギー工学講座
専門分野：システム安全工学、高経年評価技術

【略歴】

昭47. 4 東京大学工学部原子力工学科卒業
47. 5 関西電力株式会社入社
平 2. 6 関西電力株式会社原子力建設部原子力工事課長
5. 6 関西電力株式会社原子力・火力本部原子力安全課長
6. 6 関西電力株式会社高浜発電所次長（原子炉主任技術者）
8. 6 関西電力株式会社原子力・火力本部副部長（高経年評価、原子力安全技術）
20. 2 博士（工学）（東京大学）
21. 8 関西電力株式会社原子燃料サイクル室技監（規格・基準）
22. 7 大阪大学教授大学院工学研究科

邑瀬和生名誉教授(理学研究科)逝去



本学名誉教授邑瀬和生先生は、病氣療養中のところ平成22年5月16日(日)に肝硬変にともなう腎不全のため逝去されました。享年72歳でした。

邑瀬先生は昭和36年3月に大阪市立大学工学部をご卒業後、同大学院工学研究科修士課程を昭和38年3月に修了されました。昭和38年4月大阪大学理学部助手に採用され、昭和48年1月に講師、昭和53年1月に助教授、昭和54年3月に大阪大学理学部教授に昇任され、平成8年4月に大阪大学大学院理学研究科教授に配置換えになり、平成13年3月に定年退官されました。この間、物性物理学講座

を担当され、38年間の長年にわたって学生の教育、研究指導を行い、多数の有能な人材を育成されました。

研究面において先生は物性物理学、特に半導体物理学の分野において半導体メソスコピック系、ガラス半導体、縮退半導体の素励起間相互作用、Ge、Siなどのサイクロトロン共鳴の研究で卓越した業績をあげられました。特に、量子ホール効果のエッジ状態の直接観測や、ガラス半導体の中距離秩序と物性に関する研究は高く評価されています。学内においては、極限科学研究センター教授などを兼任されて運営発展に尽力され、また、多くの学内委員会の委員長に就任されました。特に理学部物理学科長として、同学部の大学院重点化を完成させるなど、大阪大学及び同大学院理学研究科の運営と発展に大いに貢献されました。

学外においても、文部省学術審議会専門委員、日本学術振興会委員などの多方面の委員を歴任し、この分野の学術振興に寄与されるとともに、国際的にも、第25回半導体物理学国際会議副委員長(平成12年、大阪)など、多くの国際会議の委員を務められ、この分野の研究の国際交流に貢献されました。

定年退官後は岡山理科大学の非常勤講師に就任され、学生に最先端の科学の面白さを講演するなど、後進の育成に尽力されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(理学研究科・理学部)

芝崎勲名誉教授(工学部)逝去



本学名誉教授芝崎勲先生は、病氣療養中のところ、5月30日(日)にご逝去されました。享年90歳でした。

先生は、昭和18年大阪帝国大学工学部醸造学科をご卒業後、陸軍航空技術研究所にて勤務のうち終戦を迎えられ、昭和22年大阪大学工学部に研究嘱託として帰学され、昭和23年4月より同研究員、昭和26年1月に同助教授、昭和36年7月に同教授に就任、同学工学部醸酵工学第三講座(「抗生物質工業および食糧工業」のち昭和43年教室改組により「殺菌工学及び食糧貯蔵工学」)を担当され、昭和59年4月停年により退職されました。同年摂南大学客員教授に、昭和60年10月帝塚山学院短期大学教授に就任、昭和62年4月同学副学長、平成元年4月より平成5年3月まで同短期大学長を務められ、その後も平成6年3月まで同学にて非常勤講師を務められ、長きに亘り学生の教育・研究ならびに後進の指導育成に尽力され、多数の有能な人材を育てられました。

先生のご研究は、終始、食糧の貯蔵性を高めてその有効

利用を図るために有害微生物を如何に排除するかに向けられ、有害微生物の制御に有効な薬剤の開発とその低毒化・無残留化の方向で研究が進められ、多くの業績を残されました。食品における殺菌の重要性は古くから認識されていましたが、先生の研究以前には限られた分野の経験が断片的に集積されているにすぎず、先生は、これを工学として体系化し、「食品殺菌工学」という新分野を確立され、我が国のこの分野における開拓者としての役割を果たされました。代表的著書「食品殺菌工学」(昭和42年初版)は、断片的な研究情報を系統的に整理し、基礎から応用までをカバーした待望の書で、その後長く、この分野での研究者・技術者にとって唯一の教科書的存在となりました。本学退職後も、新しい技術と研究成果の収集を精力的に続けられ、情報を著書として発信されるなど、まさにこの分野における牽引役を務めてられました。

学会においては、日本醸酵工学会(現日本生物工学会)副会長、日本食品工業学会副会長、日本防菌防黴学会会長、日本コールドチェーン研究会副会長、日本低温保蔵学会副会長、日本食品機械研究会会長等を歴任、とくに、日本防菌防黴学会では、学会設立時から深く関わり、学会の中核となって長く活動され、実学の発展・普及に多大な貢献をされました。平成5年には食品保蔵分野の学会活動および研究業績に対して、日本食品低温保蔵学会より第1回小原哲二郎記念功績賞が与えられました。

一方、大阪大学においては、各種委員会委員のほか大阪大学評議員、工学部会計委員会委員長などを歴任、大阪大学、工学部の円滑な活動にも尽力されました。

これら一連のご功績に対して、平成6年には勲二等瑞宝章を授章されました。

ここに慎んで哀悼の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学研究科・工学部)

大阪大学大学院学位記授与式

大学院学位記授与式を下記のとおり挙行します。

○大学院学位記授与式

日 時：平成 22 年 9 月 22 日(水) 11 時 00 分～ (10 時 20 分 入場開始予定)

【10 時 45 分までに入場のうえ着席願います】

場 所：大阪大学吹田キャンパス コンベンションセンター 3 階 MO ホール

○同祝賀会

日 時：授与式終了後

場 所：大阪大学吹田キャンパス コンベンションセンター 1 階 会議室

※お席に限りがありますが、同伴者の方も授与式にご出席いただけます。

満席の場合は、同センター会議室において、授与式を映像でご覧いただくことになりますので、予めご了解の程よろしくお願いいたします。

※開式後の式場への入場はお断りする場合がございますのでご注意ください。

※車での来場はご遠慮下さい。

〈問い合わせ先〉総務部総務課総務係 TEL：06－6879－7014

(総務部総務課)

第26回湯川記念講演会

日 時：2010 年 10 月 10 日(日) 13：00－17：00

場 所：大阪大学中之島センター 10 階 佐治敬三メモリアルホール

対 象：高校生以上の学生及び一般の方々

定 員：先着 190 名

受 講 料：無料

主 催：大阪大学総合学術博物館湯川記念室

共 催：日本物理学会大阪支部

後 援：日本物理教育学会近畿支部

高校生、一般の方を対象に、最前線の物理を紹介します。

13：00－14：30 「フェルミ・ガンマ線宇宙望遠鏡でみる高エネルギー宇宙像」

大杉 節（広島大学宇宙科学センター教授）

15：00－16：30 「脳情報による新しいヒューマンインターフェース技術」

唐山英明（富山県立大学工学部准教授）

申込方法：郵便、E-mail または FAX で、氏名（ふりがな）、住所、郵便番号、電話番号、年齢、性別、職業をご連絡下さい。

（ご連絡いただいた個人情報、他に利用するものではありません。）

電話によるお申し込みは不可とさせていただきます。定員に余裕のある場合は、当日会場でも受け付けます。

〒560-0043 豊中市待兼山町1-1 大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念講演会係

E-mail：yukawa5@het.phys.sci.osaka-u.ac.jp（件名は「2010.10.10 参加申込」をお願いします。）

FAX：06－6850－5341

〈問い合わせ先〉大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念講演会係 TEL：06－6850－5341（月～金 10：00～17：00）

大阪大学湯川記念室ホームページ <http://www-yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/>

（総合学術博物館湯川記念室）

大阪大学フォーラム2010(グローニンゲン)

本学では、研究者の優れた研究活動を広く海外に発信するため、毎年、大阪大学フォーラムを開催しています。

第10回を迎える今年度は、グローニンゲン大学と共催で、人文学及びコンフリクト研究に関する講演や発表などを行います。

開催期間：9月28日(火)～30日(木)

開催場所：グローニンゲン大学(オランダ・グローニンゲン)

University of Groningen

テーマ：グローバル化とコンフリクト

Globalization and Conflict: Entanglement between Local and Cosmopolitan Orientations

開催内容：講演、研究発表、パネルディスカッション

主催：大阪大学、グローニンゲン大学

実行委員長：小泉潤二(理事・副学長、グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文学国際研究教育拠点」リーダー)

ホームページ：<http://gcoe.hus.osaka-u.ac.jp/forum2010.html> (プログラム等の詳細は、8月上旬に上記HPへ掲載予定です。)

お問い合わせ：グローバルCOE事務局(フォーラム事務局)

電話/Fax: 06-6879-4048 E-mail: gcoejimu@hus.osaka-u.ac.jp

(国際部国際交流課)

大阪大学室内楽アンサンブル第11回演奏会

大阪大学室内楽アンサンブル(OUCE)は、クラシック音楽の日常的な練習会および定期的な演奏会活動を通して、大阪大学の文化的基盤の醸成と大阪大学構成員間のコミュニケーション促進に微力を尽くすことを目的として、平成17年4月に設立されました。大阪大学の大学祭行事の一環として年2回(春・秋)、MOホールにおいて演奏会を開催し、毎回多くの方にご来聴をいただいております。

5月2日(日)に開催された第10回演奏会は大学関係者、近隣のお住まいの方などを中心に、多くの方にご来場いただき、好評を博しました。

10月に第11回演奏会を下記の通り開催いたしますので、皆様、お誘い合わせの上、ご来聴賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

詳しくは、OUCEのホームページ(<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~ouce/>) *をご覧ください。(*当ホームページは、クラシック音楽情報センター(<http://www.musicinfo.com>)より、サーバーの無償提供を受けています。)

〈問い合わせ先〉 shinomiya@chem.eng.osaka-u.ac.jp

日時：平成22年10月24日(日) 開場：13:30 開演：14:00

場所：大阪大学コンベンションセンター MOホール

入場無料

(演奏曲目 ※順不同)

フォーレ/ピアノ五重奏第2番1楽章

フォーレ/組曲「ドリ」より数曲

ドリング/トリオ

シューベルト/ピアノ三重奏曲“Notturmo”変ホ長調 D.897 Op.148

テレマン/ターフェルムジーク

グリンカ/大六重奏曲 変ホ長調

休憩時間にはリコーダー演奏もあります。

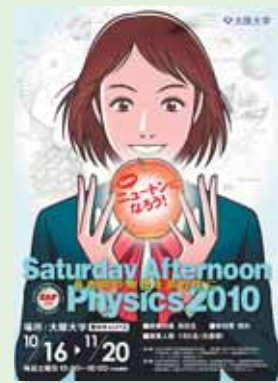


* OUCEでは一緒に演奏していただける方を募集しています(特に弦楽奏者)*
OUCEの演奏に参加してみたい方はぜひ下記までご連絡ください。
四宮良美 shinomiya@chem.eng.osaka-u.ac.jp
堀井俊宏 horii@biken.osaka-u.ac.jp

(OUCE)

最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2010

日 時：平成22年10月16日、23日、30日、11月6日、13日、20日、午後3時～6時
場 所：大阪大学理学部大講義室（豊中キャンパス）
主 催：大阪大学総合学術博物館湯川記念室
共 催：大阪大学大学院理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、大学教育実践センター、
レーザーエネルギー学研究センター、核物理研究センター
後 援：大阪府教育委員会、京都府教育委員会、奈良県教育委員会、兵庫県教育委員会、
京都市教育委員会、日本物理教育学会近畿支部、大阪府高等学校理化教育研究会、
朝日新聞社、大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター



最新の自然像を知ってほしい。そのような願いを込め、今年も「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2010 ー宇宙からの極微の世界までー」を開催します。一線で活躍する研究者による最先端の物理の分かり易い講義に様々な実験デモや展示もとりいれ、自然の謎を解き明かす物理を探索します。また、科学の知識と技術が私たちの社会にどのように生かされているかについても解説します。土曜の午後に6週間続く、内容ゆたかな、とても楽しい学校を目指します。好奇心旺盛な方々の参加をお待ちしています！

【授業構成】

授業は毎回3時間で、次の三部構成で行います。

- (1) 基幹講義：自然界の様々な世界を訪ねます
- (2) コーヒーブレイク：展示、交流、Q & A
- (3) 実践講義：ハイテクにおける物理、ゲーム、クイズ

10 / 30 は、レーザーエネルギー学研究センター、核物理研究センター、工学研究科の最先端研究施設を見学します。

【募集対象】高校生（教職員、保護者のオブザーバー参加も可能です。）

【募集人数】180名

【参加費】無料

【申し込み】事前の申し込みが必要です。郵便・FAX・E-mail 又は Web サイトでの申し込みが可能です。

氏名（フリガナ）、学校名、学年、住所と郵便番号、申し込みの動機、メールアドレス（FAX 番号）をお知らせ下さい。

※詳しくはホームページ <http://www.yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/SAP/> をご覧ください。

【申し込み締め切り】9月24日（金）必着

〈問い合わせ先〉大阪大学理学研究科内 湯川記念室（〒560-0043 豊中市待兼山町1-1）

FAX：06－6850－5341

E-mail：sap2010@phys.sci.osaka-u.ac.jp

件名：SAP2010 申し込み

（総合学術博物館湯川記念室）

平成22年度大阪大学大学院薬学研究科公開講座「くすりと医療」のご案内

- 目 的：**2006年度から薬学部6年制が導入され、薬剤師、薬学研究者の専門的かつ幅広い知識が益々必要とされています。本講座では、「くすりと医療」をテーマに、基礎から臨床までの最新の知見をもとに、現在の課題と将来への展望について、それぞれ最先端の分野で活躍する研究者が講述します。
- 日 時：**平成22年11月13日(土)、11月27日(土) 各日13:00～17:50
- 場 所：**大阪大学大学院薬学研究科2号館特別講義室（大阪大学吹田キャンパス内詳細図は裏面参照）
- 主 催：**大阪大学大学院薬学研究科

●演題及び講師●

11月13日(土)

- 13:00～14:30 『水素同位体の化学 - その利用と医薬品への応用』
大阪大学大学院薬学研究科・特任准教授 前 川 智 弘
- 14:40～16:10 『最先端タンパク質結晶学と医薬品探索』
大阪大学大学院薬学研究科・准教授 青 山 浩
- 16:20～17:50 『幹細胞からの心筋前駆細胞の単離：疾患治療への展望』
大阪大学大学院薬学研究科・招へい教授
国立循環器病研究センター研究所・分子生物学部長 森 崎 隆 幸

11月27日(土)

- 13:00～14:30 『精神疾患の新たな治療に向けて ～環境因子の活用による薬物標的分子の探索～』
大阪大学大学院薬学研究科・准教授 田 熊 一 敏
- 14:40～16:10 『遺伝子操作マウスを通して見えてきた遺伝子の不思議』
大阪大学微生物病研究所・教授 岡 部 勝
- 16:20～17:50 『感染症対策に向けた貼るワクチンの開発』
大阪大学大学院薬学研究科・教授 中 川 晋 作

対 象 者：本講座は大阪大学に限らず広く薬学部卒業生、薬剤師（開局、勤務を問わない）、製薬企業勤務者等、薬に関する基礎知識を有する方が対象ですが、一般の方でも本講座に関心のある方の参加を歓迎します。

なお、本講座は日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度対象講座及び大阪府病院薬剤師会（OHP）生涯研修制度認定対象講座です。

受 講 料：6,200円（申込後は受講料の返還はできません。）

申 込 期 間：平成22年9月24日(金)～10月22日(金)

申 込 方 法：受講料を下記の銀行口座に振り込み後、「納付証明書（銀行の窓口より口座振替する場合）」又は「ご利用明細（ATMより口座振込する場合）」と「受講申込書」を併せて、下記送付先へ郵送下さい。

※「納付証明書」又は「ご利用明細」はコピーでも構いません。

※現金持参又は現金書留でのお取り扱いはできません。

振 込 口 座：三菱東京UFJ銀行 茨木支店

普通預金 口座番号：1297750

口座名義：大阪大学薬学部（オオサカダイガクヤクガクブ）

※ATMを利用される場合は（コクリツダイガクオオサカヤクガク）と表示されます。

詳しくは、大阪大学大学院薬学研究科ホームページ <http://www.phs.osaka-u.ac.jp/> をご覧下さい。

お問い合わせ先及び書類送付先：大阪大学薬学研究科庶務係 TEL 06 - 6879 - 8144（直通）

〒565 - 0871 大阪府吹田市山田丘1 - 6

（薬学研究科・薬学部）

第42回大阪大学中之島講座

共通テーマ 「いまを読み解く ―医療・都市―」

大阪大学は、1968年に国立大学で最初に公開講座を実施しました。当初は「大阪大学開放講座」という名称で開講してきましたが、2004年に「大阪大学中之島講座」と名称を改め、今年で42年目を迎える市民のための講座です。

今年の共通テーマは「いまを読み解く ―医療・都市―」とし、「(A) 先端医療とその課題」、「(B) 哲学する都市」の二つのサブテーマを設定しました。

本学が誇る講師陣により現代の諸問題について皆様とともに考えていきたいと思ひます。興味、関心のあるテーマを選ばれて是非受講のお申し込みをいただきますよう心からお待ちいたしております。



■サブテーマ (A) 「先端医療とその課題」

講義時間帯：18：30～20：00

講義日	区分	講義題目	講師
9月17日(金)	A-1	個別化医療に向けた医薬品の適正使用	大学院薬学研究科・教授 宇野公之
9月22日(水)	A-2	iPS細胞の医療応用、特に創薬分野への応用について	大学院薬学研究科・教授 水口裕之
9月24日(金)	A-3	病気の予防と早期発見のための画像医学	大学院医学系研究科・教授 畑澤順
10月6日(水)	A-4	次世代医療に向けた核酸医薬の最前線	大学院薬学研究科・教授 小比賀聡
10月13日(水)	A-5	医療におけるバイオマテリアル実用化の最前線	大学院歯学研究科・教授 由良義明
10月15日(金)	A-6	ナノテクノロジーを活用した医療、化粧品、食品の安全性と今後の課題	大学院薬学研究科・教授 堤康央
10月20日(水)	A-7	高齢者医療の課題～肺炎は予防できる～	大学院医学系研究科・教授 朝野和典

■サブテーマ (B) 「哲学する都市」

講義時間帯：18：30～20：00

講義日	区分	講義題目	講師
10月29日(金)	B-1	ジェイン・ジェイコブズ『アメリカ大都市の死と生』周辺	大学院法学研究科・教授 河田潤一
11月5日(金)	B-2	都市空間の歴史を読む―中世都市からニュータウンへ	大学院文学研究科・教授 三谷研爾
11月10日(水)	B-3	大都市制度の問題点：「大阪都」構想を考える	大学院法学研究科・准教授 北村亘
11月17日(水)	B-4	都市のデザインとマネジメント	大学院工学研究科・教授 加賀有津子
11月26日(金)	B-5	ミュージアムが都市の輝きを増す―大阪圏と美術館再考―	総合学術博物館・教授 橋爪節也
12月3日(金)	B-6	劇場都市ニューヨークのボヘミアン空間―1915年のグリニッチ・ヴィレッジ	大学院言語文化研究科・教授 貴志雅之
12月8日(水)	B-7	まちは自分たちで創ろう～環境設計情報学の視点から～	大学院工学研究科・准教授 福田知弘

■主 催

大阪大学 21 世紀懐徳堂

■会 場

大阪大学中之島センター 3 階多目的スペース 2

大阪市北区中之島 4-3-53

TEL 06 (6444) 2100 <http://www.onc.osaka-u.ac.jp>

■対象者及び定員

対象：一般市民・学生

定員：各サブテーマ別 80 名【先着順】

※定員になり次第、締切とさせていただきますので、ご了承ください。

■講習料（テキスト代及び消費税を含む。）

・サブテーマ A（7 講義を全て受講する場合）	7,200 円
・サブテーマ B（7 講義を全て受講する場合）	7,200 円
・サブテーマ A・B の両方（14 講義を全て受講する場合）	9,200 円
・全 14 講義のうち 1 講義～数講義を選択受講する場合	1,500 円／1 講義当たり

※受付期間中に受講取消のお申し出があった場合は、所定の手続きにより、後日全額をご返金いたします。

なお、受付期間終了後に受講取消のお申し出をされた場合は、ご返金することができませんので、ご了承ください。

■申込方法

①下記受付期間中に所定の「受講申込書」に必要事項をご記入のうえ、郵送、ファクシミリまたは E メールで送付願います。

E メールでお申し込みの方は、大阪大学 21 世紀懐徳堂ホームページから申込書をダウンロードしてください。

受講申込書の記載事項を確認したうえで、折り返し受講決定通知の連絡を電話もしくは E メールにて行います。

②受講決定の連絡を受けた方は、下記に記載の受付期間内に、講習料を次の指定振込銀行口座へ受講者のご氏名で振込み願います。

なお、振込みによる手数料等については、ご本人様負担とさせていただきますので、ご了承ください。

口 座 名：三菱東京 UFJ 銀行 茨木支店 普通預金 1502217

口座名義：オオサカダイガク コウホウ・シャガクレンケイジムシツ

大阪大学 広報・社会学連携事務室

○受付期間：

サブテーマ (A) 「先端医療とその課題」	8 月 30 日(月)～9 月 10 日(金)必着
サブテーマ (B) 「哲学する都市」	10 月 12 日(火)～10 月 22 日(金)必着

(但し、各受付期間とも、土・日・祝祭日を除く平日のみ)

※受講申込みについて、原則として各サブテーマ別に受付期間を設けますが、あらかじめ 2 サブテーマ両方（全 14 講義）を受講希望される方は、優先して事前に受付いたします。

※先着順としておりますが、定員を超える場合は、サブテーマの全講義を受講される方を優先させていただきますので、ご了承ください。

■受講証書

サブテーマ A、B でそれぞれ 6 回以上出席された方には、受講証書をサブテーマ別に交付いたします。

■お問い合わせ及びお申し込み先

大阪大学 21 世紀懐徳堂 中之島講座担当

〒560-0043 豊中市待兼山町 1-16 TEL 06 (6850) 6443 FAX 06 (6850) 6449

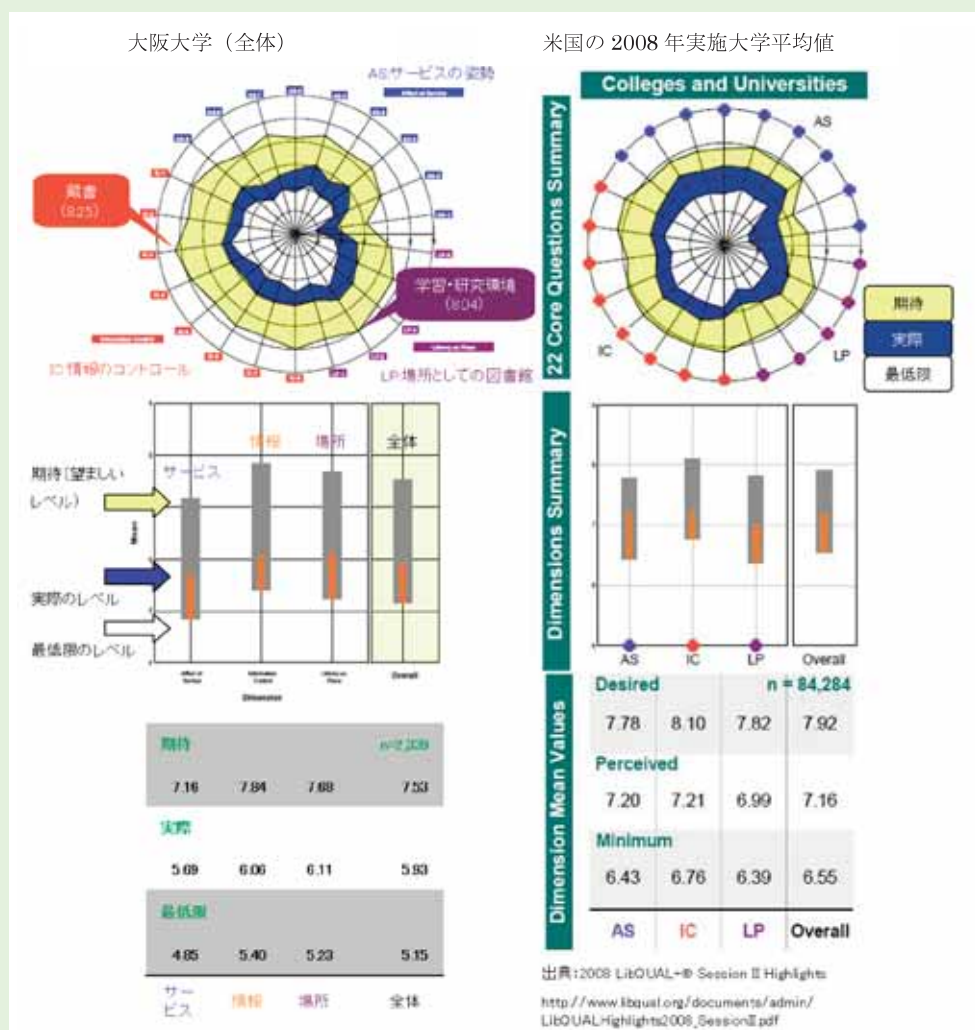
E-mail: info@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp ホームページ: <http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>

附属図書館サービス向上にむけてのアンケート調査のお願い

附属図書館では本年10月に、図書館サービスの向上のためのアンケート調査を実施します。一昨年に続き LibQUAL+® (ライプカル) という、米国研究図書館協会が開発したウェブによる図書館サービス品質測定調査ツールを用いて図書館を評価するものです。

前回の調査では、この調査の特徴である最低限、期待、実際という評価指標を比較すると、図書館サービスに対する現状評価は、全体的には最低限のレベルを上回り、9段階評価中6に近い値でした。一定のサービスレベルは満たしていましたが、期待レベルは7.5を超えており、図書館サービスがまだまだ十分でないことを示す結果となりました。特に蔵書 (8.25)、学習・研究環境 (8.04) の期待 (望ましい) レベルが示すとおり更なる充実を望む声強いことがうかがえました。また、米国の2008年実施大学 (平均値) との比較では、すべてのサービスレベル (最低限、期待、実際) について大阪大学の方が低い値となりました。この調査におけるサービスの評価は、実際のサービスレベルが高いほど最低限および期待レベルも高くなる傾向を示します。

附属図書館では、これらのアンケート結果を真摯に受け止め、図書館サービスの向上に努めてきました。この間、総合図書館と理工学図書館の耐震改修工事を終え、ラーニング・コモنزの新設や開館時間の延長などを実施してきました。前回調査の回答率は、調査対象者 (学部、大学院生、教員の在籍数) の8.8%にとどまりましたが、有効な評価結果が得られるよう10月実施の調査に、多くの大阪大学構成員のご協力をお願いします。



(附属図書館)

大阪大学出版会「コンクール受賞図書のご案内」

大阪大学出版会が刊行した『フランスの子ども絵本史』（石澤小枝子・高岡厚子・竹田順子・中川亜沙美著、A4判オールカラー 424頁、平成21年2月刊）が、日本書籍出版協会・日本印刷産業連合会主催の第44回造本装幀コンクールで日本図書館協会賞を受賞しました。賞は大阪大学出版会と装幀者（フランスの絵本作家ジャックリーヌ・デュエムさん）、印刷・製本所（遊文舎）にそれぞれ贈られました。

このコンクールは造本装幀を評価する国内最大のもので、本書の受賞理由について、日本図書館協会の松岡要氏は、「本を利用する立場から、（中略）美しさが長期にわたって保たれていること、造本が丁寧でしっかりしていることが欠かせません。」また、（内容が）「高い評価を得た本ですが、造本、装幀などの面からも優れた本として選考しました。絵本の表紙の写真もきれいです。日本の絵本についても触れており、参考になります」と評されました。

今回受賞した本は、今秋ドイツ・フランクフルトの・ブックフェアに展示されたのち、平成23年ドイツ・ライプツヒで行われる「世界でもっとも美しい本国際コンクール」にノミネートされることになっています。



（大阪大学出版会）

訂正とお詫び

阪大NOW No.118（2010年6月号）の掲載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正するとともにお詫び申し上げます。

P.73 「インフォメーション」の『大阪大学基礎工学部 第32回公開講座「未来を拓く先端科学技術」』

本文中の講座名称

8月4日（水）開講

（誤）微少物質ダイナミクス講座 （正）微小物質ダイナミクス講座

オランダによこそ! (Welkom in Nederland!)

国際部国際連携課海外拠点支援係
(グローニンゲン教育研究センター副センター長)

中山 友美

大阪大学グローニンゲン教育研究センターに勤務しております、中山と申します。今回、阪大 Now に投稿する機会をいただきましたので、オランダについてご紹介したいと思います。

■ オランダとグローニンゲンについて

今年はワールドカップがありましたので、一次リーグで同じグループだったオランダについてのニュース、番組等をご覧になった方も多いのではないのでしょうか。オランダは、正式名称をオランダ王国 (Koninkrijk der Nederlanden) と言いまして、ベアトリクス女王が治める立憲君主制の国です。面積は九州と同規模、人口は1650万人で日本の七分の一ほどです。首都はアムステルダム、公用語はオランダ語で、東側はドイツ、南側はベルギーと国境を接し、北側と西側は海に面しています。12州のうち、グローニンゲン州は北東部に位置し、その州都がグローニンゲン市です。グローニンゲン市は人口約20万人で、自転車王国と言われるオランダの中でも、特に自転車の利用が多い街として知られています。

■ オランダでの春夏秋冬について

春 (de lente)



オランダと言えば、チューリップや風車を思い出される方も多いことでしょう。アムステルダム近郊のキューケンホフ公園は毎年3月下旬～5月中旬の約2か月間のみ開園します。オランダ観光の目玉ともいえるこの公園は、チューリップを中心に色とりどりの花で埋め尽くされています。今年

はロシアをテーマとし、450万株のチューリップを含め、700万株の花が植えられました。キューケンホフ公園が開園し、3月末にサマータイムが始まれば、オランダに春が来た、と実感できます。

グローニンゲン教育研究センターでは、春頃から、夏休みに実施される文系学部学生対象の短期語学研修の準備が

始まります。グローニンゲン大学の全面的な協力のもと、大まかなカリキュラムや宿泊場所をグローニンゲン大学の関係者と打ち合わせし、日本側とも調整をしながら、参加者を募集してもらいます。また、今年度は、4月にグローニンゲン大学の学生団体が2団体、大阪大学を訪問しました。訪問プログラムの作成を少し手伝ったのですが、アイスランドの火山灰の影響で2団体とも渡航が遅れ、予定変更を余儀なくされました。幸い、どちらの団体も満足のいく研修旅行となったようで、今後も日本に興味を持ってくれるよう、願っています。

夏 (de zomer)



運河クルーズも行われ、日差しの中、アイスを片手に街を歩く人や、オープンカフェでビールを楽しむ人が多くなる季節です。夏至の頃には、22時でもまだ外が明るいですが、湿気が少なく、大阪に比べれば、ずっと過ごしやすいのですが、30度を超える日もあります。ちょうどワールドカップ準々決勝のオランダーブラジル戦の日が、30度を超えました。グローニンゲンでも勝利したお祝いで、かなりの盛り上がりようでした。残念ながらスペインに負けて準優勝でしたが、夜遅くまでブゼラの音や花火等の喧騒が聞こえていました。

夏には、センターの主要な行事である短期語学研修が実施されます。英語の授業とオランダに関する授業を2週間受けるというもので、土日には近郊へのバス研修旅行やオランダ人家庭訪問等、教室では経験できないこともプログラムの中に組み込まれています。研修期間中にグローニンゲン大学の新学期が始まるため、留学生対象の歓迎式典に参加し、各国からの留学生と知り合う機会もあります。センターでは、この式典のプログラムの一つである大学フェアに毎年参加し、ブースに立ち寄った学生に対し、大阪大学への留学について各種プログラムを紹介しています。また、今年度は9月28日～30日に大阪大学フォーラムが

“Globalization and Conflict: Entanglement between Local

and Cosmopolitan Orientations”というテーマのもと、グローニンゲンで開催されます。平成19年度にも大阪大学フォーラムがグローニンゲンで開催されましたので、その時の作業を参考にしつつ、準備にあたっているところです。

秋 (de herfst)



10月末にはサマータイムが終わり、小雨が降る日が多くなります。ゴッホやフェルメール、レンブラントの絵画が有名で、美術館、博物館が多いため、芸術の秋を堪能するのによい季節です。

また、秋は、オランダ伝統の行事がいくつかあります。11月10日前後にあるシンマーテン (Sint Maarten) は、ハロウィンと似ていて、お手製のランプを持った子供たちが町を歩き、店や家の前で歌を歌って、お礼にお菓子をもらうというものです。11月中旬には、シンタクラス (Sinterklaas) がお供と一緒に船でスペインからやってきます。この様子は毎年テレビ中継されます。シンタクラスは12月6日までオランダに滞在し、1年間いい子だった場合、プレゼントをくれますが、悪い子にはお仕置きが待っています。これがオランダのもう一つのクリスマスです。

秋には、グローニンゲン大学主催の留学説明会に参加しています。夏に実施される留学生対象の大学フェアとは違い、秋は交換留学、インターンシップに特化したもので、かなり具体的に留学等を検討している学生が多く参加します。18時半からの開始ということもあり、昨年は300人以上が全体説明会に参加しました。地域ごとの説明会、交換留学生による在籍大学の紹介やグローニンゲン大学の学生による留学体験談の発表等も行われます。センターは、アジア地域の説明会に参加して質問に答えたり、ブースに立ち寄った学生に対し、大阪大学への留学について各種プログラムを紹介したりしています。また、日本学術振興会ボン研究連絡センター主催の日本大学説明会や在オランダ日本大使館との合同参加の阿姆斯特ダム大学・阿姆斯特ダム職業大学合同留学フェアが行われるのもこの時期で、特段の事情がない限り、どちらも参加しています。日本大学説明会は、昨年度はベルリンで開催され、今年度はフライブルクで開催される予定です。

冬 (de winter)

日の出が9時近く、日の入りが夕方4時台とますます日が短くなります。普段はあまり雪が降らない、降ってもそう積もらないはずなのですが、昨年の冬は違いました。12月中旬にバスが運休するくらいに雪が積もり、完全に雪が



なくなったのは2月下旬ごろでした。余りの寒さに、今年こそはフリースランド州 (グローニンゲン州の隣) の11市町村内で行われる凍っ

た運河、川、湖をスケートで巡る世界最長のレース、Elfstedentochtが開催されるのではないかと期待した人も多かったようです。残念ながら1997年以降は開催されていませんが、運河は凍りましたので、各地でスケートを楽しんだ子供たちも多かったようです。

毎年1月には、日本商工会議所に登録している在オランダの日系企業、教育関係機関等が参加する年次総会がアムステルダムで開かれます。昨年度は通常の賛詞交歓会に加え、2008年ー2009年の日蘭通商400周年閉会式典も同日に行われ、非常に盛会でした。2月には、グローニンゲン大学では新学期が始まります。上旬には夏と同様、留学生歓迎式典のプログラムの一つである大学フェアに毎年参加し、ブースに立ち寄った学生に対し、大阪大学への留学について各種プログラムを紹介しています。下旬には、行動・社会学部主催の留学説明会に参加し、同様に大阪大学への留学について各種プログラムを紹介しています。また、昨年度は12月6日に若手研究者インターナショナル・トレーニングプログラム (ITP) に関するシンポジウムがグローニンゲンで開催されました。

オランダは、街中でも充分英語が通じます。食事には期待ができないことも多いのですが、綺麗な風景と明るく元気なオランダ人たちが楽しませてくれます。留学や研究、出張で、オランダに、そしてグローニンゲンに是非お越しください。お待ちしております。



ロッテルダム近郊
キンデルダイクの風車群
(ユネスコ世界遺産)



グローニンゲン市内の運河

ビーレフェルト大学(ドイツ)

Bielefeld University



ビーレフェルト大学は、1969年に新しいタイプの総合大学としてドイツビーレフェルト市に設立されました。生物学部、化学部、歴史学・哲学・神学部、健康科学部、言語学・文学部、数学部、教育学部、物理学部、心理学・スポーツ科学部、法学部、社会学部、テクノロジー学部、経営学・経済学部の13学部から成り、約18,000名の学生が学んでいます。大学のコンセプトは「異分野融合」で、全学部を一つの屋根でつないだ建物が象徴するように、教育と研究の両面で学際的な取り組みを推進しています。特に、Center for Interdisciplinary Researchはその中心的役割を果たし、海外からも研究者を招聘して最先端の研究に取り組むほか、ワークショップ等も開催しています。

ビーレフェルト大学はその浅い歴史にも関わらず、国内外から研究の中心として高い評価を受けています。DFG (German Research Foundation) による国内の研究資金総合ランキングでは150大学中上位28大学に数えられ、3つ



の研究グループ、9つの大学院プログラム、4つの共同研究センターのサポートも受けています。さらに2007年には「Cognitive Interaction Technology」と「History and Sociology」の2つの拠点がドイツのCOEに採択されました。特に、前者は大阪大学グローバルCOE「認知脳理解に基づく未来工学創成(2009年採択)」と目的を共有しており、ロボット工学と認知科学、そして医学や生物学の融合教育研究拠点として、COE間での学術・技術交流も盛んに行っています。

ビーレフェルト大学と大阪大学の大学間協定は、2010年4月に締結されました。2006年より続く工学部の部局間協定は、学生と教員の相互交換、そしてCOE間の交流と高い成果を上げています。今回の大学間協定の締結により、より幅広い分野での交流が期待されます。

(コンタクトパーソン・長井志江工学研究科特任准教授)



ウェブサイト：<http://www.uni-bielefeld.de/>

編集後記

7月10日(土)に箕面キャンパスで開催された「大阪大学夏まつり2010」(41ページ)と、7月25日(日)には「天神祭」(64ページ)に初めて参加しました。

今回は記録業務、運営スタッフとしての参加でしたが、大学と地域、そして大学と世界の「つながり」を改めて感

じた二日間でした。

皆様も大阪大学のイベントを通して、ぜひ、大阪大学のモットー(地域に生き世界に伸びる)を肌で感じてみてはいかがでしょうか。

(柿木)

硬式野球部

青春の延長戦



「学生野球」といえば高校野球を思い描く方が多いと思いますが、「大学野球」もお忘れなく。高校野球の聖地を甲子園とするなら、大学野球の聖地は神宮です。我々大阪大学硬式野球部は、近畿学生野球連盟のⅠ部リーグに所属しており、神宮出場を目標として、日々厳しく楽しく練習を重ねています。同じリーグには3年連続でプロ野球選手を輩出中の奈良産業大学を筆頭に、プロ注目の投手を擁する大阪教育大学など、数々の強豪校が名を連ねており、非常にレベルの高い環境で活動しています。部員の経歴も、小学校から野球を始めた者や大学から挑戦する者、また他部から転部してきた者まで様々ですが、全員一丸となって



同じ目標に向けて汗を流しています。

もちろん、周囲は華のキャンパスライフを満喫する学生で溢れているのに、灼熱の夏も極寒の冬もひたすら白球を追う毎日に、正直嫌気がさす時もないとは言えません。

「じゃあ何で野球してるん。」「サークルで楽しくやったらいいやん。」そう思われる方もいるかもしれません。それでも我々が大学生にもなって野球に打ち込んでいるのは、やっぱり「野球が好き」だからです。サークルで楽しくやるだけでは味わえない、真剣勝負の醍醐味に取りつかれてしまったからです。

選手だけでなく、お忙しい中で毎日グラウンドに足を運んでくださる監督、技術的な指導、練習補助を行う学生コーチや、練習のサポートだけでなく、選手の健康面の管理や試合の放送なども担当するマネージャーを含む全員が、「青春の延長戦」を謳歌しています。

大学野球に少しでも興味を持たれた方は、一度でもグラウンドに足を運んでみてください。イケメン部員もしくは美人マネージャーが笑顔で迎えさせていただきます。

部長 森川 敬一(Ⅲ3年)

〈コメント〉

昨シーズン6季ぶりのⅠ部昇格を果たしました。Ⅰ部での優勝を達成し、神宮大会出場を果たすため、日々練習しています。応援よろしくお願いします。



練習場所：豊中キャンパス グラウンド
練習日時：平日・奇数日 授業終了後～19時
休日・奇数日 9時～14時
・偶数日 13時半～18時

部員数：40人

連絡先：〈メール〉 handaikoya@yahoo.co.jp

〈ホームページ〉 <http://www.osaka-bbc.com/>



トピックス

「阪大船」今年も天神祭船渡御に出航



7月25日(日)、本年度で6回目となる阪大船は、本学が2011年に創立80周年を迎えることから、数式で表した記念事業タイトル「原点へ・未来へ」を旗印に掲げ、無事出船しました。

本年は天候にも恵まれ、心地よい大川の水面の涼風にあたりながらの船出となりました。

阪大船には、熊谷信昭元総長をはじめ、卒業生、現教職員、留学生等総勢146名が乗船しました。

毎年恒例となった、出船前の船渡御参加4大学(大阪大学、関西大学、京都産業大学、追手門学院大学)代表者によるエール交換は、関西大学の船上で行われ、各大学の学長が互いに挨拶、エールを送りあい、各大学オリジナルの法被などを交換し、和やかな雰囲気の中で大学間交流のひとつとなりました。

船上では、落語家の桂春蝶さんによる軽妙な司会進



行と、御伽衆の清水史子さん(大阪外国語大学卒業)、平山愛さん(外国語学部在学中)による天神祭の歴史や行き交う船についてわかりやすい説明で、乗船客を楽しませてくれました。

また、恒例となった本学応援団、チアによる演舞と軽音楽サークル「SWING」のジャズの調べに乗船客からは温かい拍手が送られました。

乗船客全員が行き交う船と大阪締めを打ち交わし、大阪大学ファミリーの団結力が一層強まった充実した航行となりました。

天神祭船渡御に先立ち、出船する「阪大船」の安全航行を祈願する奉告祭が、7月12日(月)に大阪天満宮で行われました。詳細は42ページをご覧ください。

(企画部広報・社会学連携事務室)



阪大 NOW No.119 2010 8月号

2010年8月20日発行

編集
発行

大阪大学広報・社会学連携室

大阪大学企画部広報・社会学連携事務室 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1

TEL: 06 (6879) 7017 FAX: 06 (6879) 7156

ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp/>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせにつきましては、下記までお寄せ下さい。

E-mail: ki-kousyagaku-kouhou@office.osaka-u.ac.jp